

令和 7 年度
枚方市施策評価報告書
【評価様式】

1. 施策の概要

施策シート【01_01】

危機管理部、健康福祉部

施策名称		防災体制の強化			
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち			
	施策目標等	1.災害に対する備えができているまち			
めざす姿（主観的満足度）		防災体制が整っている			
概要		大規模災害の発生に備え、市の防災体制の強化を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度			R8年度
	R9年度				

施策に紐づく具体的な取り組みの一覧

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

添付の『令和7年度市民意識調査結果』より、以下の分析結果を記載しています。

- ①年代別の比較
- ②関連する属性における分析
- ③昨年度（令和6年度調査）の結果との比較

市民満足度の分析

【満足度34.9%】

- ・年代別では、最も満足度が高いのは80歳以上で48.5%、最も低いのは19歳以下で18.8%である。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど、防災体制の満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、0.6ポイント上昇したものの、若者世代（24歳以下）では、6.8ポイント減少した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「枚方市備蓄目標量（重要物資備蓄品の備蓄量）達成率」、「訓練の実施校区数」、「災害ボランティアとして活動するための研修や講習会への参加人数」は、目標を達成している。「広域避難ルールの方策定校区数」は、未達成だが、目標には近づいている。
- ・「消防団員の訓練や啓発活動の従事人数」は、未達成である。

第3期実行計画の各施策に紐づく具体的な取り組みの達成状況と施策指標（客観的指標）の達成状況を記載しています。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 備蓄品管理の効率化

取り組みの内容	R6年度	担当課
備蓄品管理台帳のデジタル化として、備蓄・物流管理システムを導入・運用。	・備蓄・物流管理システム導入 ・図上訓練での活用	危機管理 対策推進 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
円滑にシステムを利用できるようにマニュアルの改定や活用機会の増加を目指していく必要がある。	備蓄・物資管理システムを導入し、図上訓練においても活用した。	
年度ごとの達成状況	◎	

※関

【具体的な取り組みの進捗】

●取り組み結果

年次の取り組み内容に対応した取り組み実績

●年度ごとの達成状況

◎：達成

○：一部未達成、達成に向け進行中

△：課題や遅れあり

×：多くが未着手

●「取り組み課題・今後の方向性」

具体的な取り組みにおける達成状況等を踏まえた課題や今後の方向性

2. 新庁舎の防災拠点機能の検討

取り組みの内容	R6年度	担当課
新庁舎建設にむけて大規模災害時の防災拠点（災害対策本部）としての機能を検討。	・必要機能の精査（施設機能、本部機能、最適なレイアウト） ・先進事例の把握	危機管理 対策推進 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き防災拠点としての機能の向上に向けた調査・検討を行っていく必要がある。	新庁舎ワーキングチームでは、各機能の精査や先進地視察等を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

【施策指標の実績】

●各年度の実績

各年度の目標に対する令和7年3月末時点実績

●施策指標の分析

指標の実績を踏まえた要因や今後の見込み、方向性

3. 広域避難訓練の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
広域避難ルールの策定と訓練の実施。	広域避難ルールの策定と訓練の実施	危機管理 対策推進 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
対象校区にルールの策定を働きかけるとともに、策定済みの校区に対しては、校区内訓練や総合防災訓練への参加などを呼びかけ、訓練を通じて防災・減災への取り組みを推進させていく。	長尾校区における広域避難のルール策定と訓練を実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	関係する取り組み等
広域避難ルールの策定校区数	避難所が浸水想定区域内に位置している15校区のうち、広域避難ルールを策定済みの校区数（累計）	8	校区 危機管理対策推進課 3. 広域避難訓練の推進
各年度の実績		7	校区 備考
【施策指標の分析 R6】 新たに長尾校区において策定することができた。広域避難は避難する側と避難者を受け取る側双方の合意が必要のため策定は容易ではないが、引き続き校区への働きかけを続けていく。			
広域避難（洪水時における避難）に関する訓練の実施校区数	広域避難（洪水時における避難）に関する訓練を実施した校区数（累計）	5	校区 危機管理対策推進課 3. 広域避難訓練の推進
各年度の実績		7	校区 備考
【施策指標の分析 R6】 防災訓練で伊加賀・枚方の2校区に対し広域避難訓練を実施した。役員等による事前訓練を含めると4回の実施となる。			

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

防災体制が整っている
01_01 防災体制の強化

目指すべき姿（施策満足度）『防災体制が整っている』に紐づく全取り組み⇒**青丸**
上記のうち施策シート『01_01 防災体制の強化』に紐づく取り組み⇒**赤ダイヤモンド**◆

施策満足度

満足	不満足	どちらとも いえない わからない
34.9%	15.2%	49.9%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
36.2%		

※回答数／全体数1,121

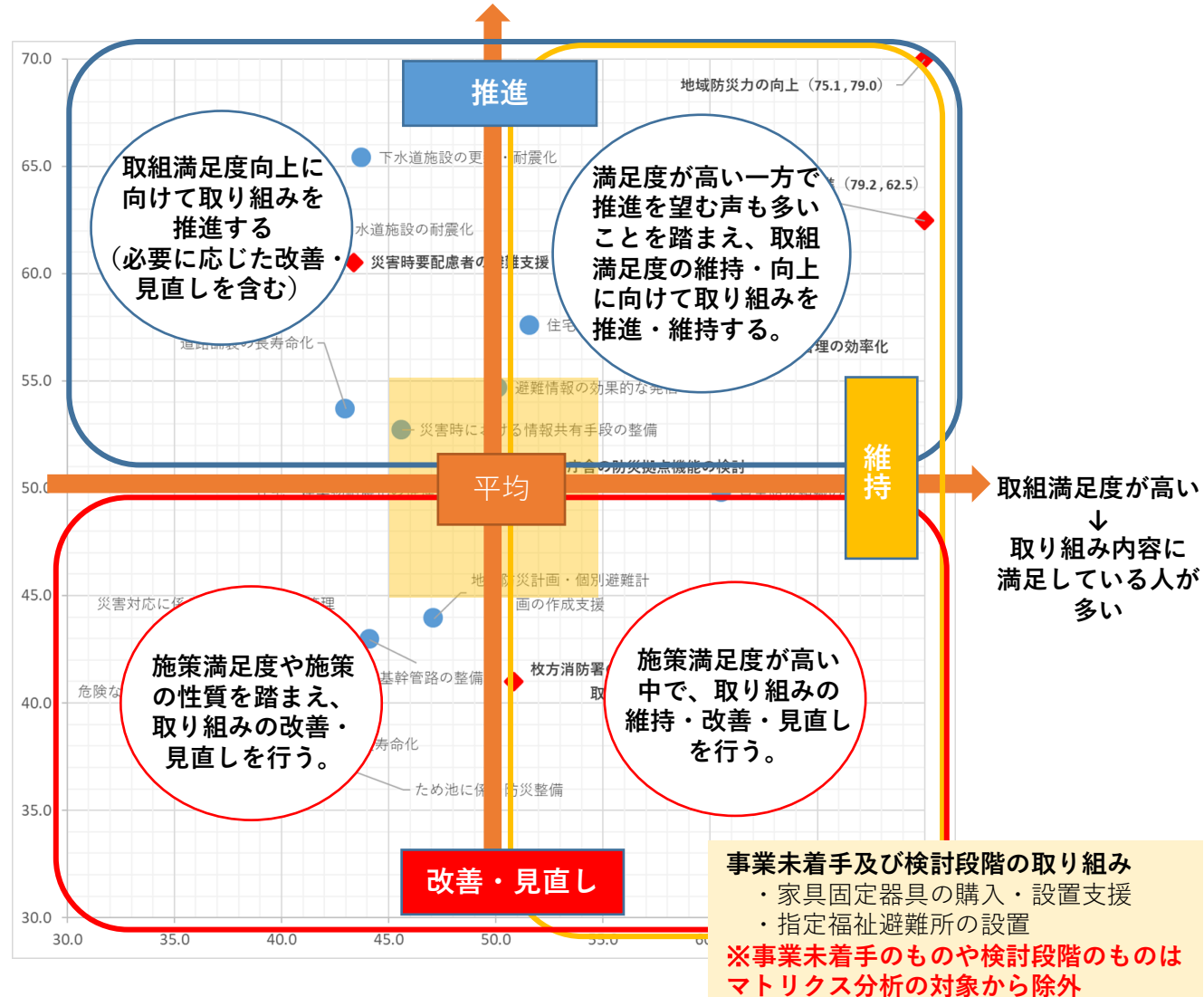
※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

施策に紐づく取り組み（◆）
の分析結果を記載しています。

施策の分析

・「1. 備蓄品管理の効率化」、「3. 広域避難訓練の推進」、「6. 地域防災力の向上」は、関心・期待度・ニーズと取組満足度がともに高く、昨今の災害発生に対する防災意識の高まりが影響していると考えられる。

関心・期待度・ニーズが高い⇒取り組みの推進を望む人が多い



5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

第3期実行計画の実績・進捗状況を踏まえた今後の方向性について記載しています。

- ・施策全体の方向性としては、引き続き、災害発生時に迅速に対応できるよう、効率的な備蓄品管理の推進や、地域防災力の向上に向けた地域との連携強化を進めていく。
- ・地域防災力の向上のため、住民一人一人が防災意識を持ってその知識や技術を身につけ、自助ができる住民を増やす取り組みが必要であるとともに、特に若者世代の満足度向上のためのPRと取り組みへの参加促進などを積極的に行っていく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・おおむね目標値、あるいは目標値を上回る実績が得られても、当該施策を継続することで市民への意識の広がりや満ち足りた生活の実現が図られることを踏まえて、対象施策（30施策）のみ、内部評価を踏まえた評価員の評価内容を記載しています。
- ・想定されている災害に対して、施策の対象や方法が限定的であるため、自助も共助も、公助がなければ成り立たない現実があることを踏まえて、市民一人一人の状況に合わせた災害対策が展開される必要がある。
- ・市民意識調査からも、枚方市が選ばれる（住みよい）市であり続けるためには、当該施策により力を入れる必要がわかり、重要な施策といえる。
- ・南海トラフ地震に備え、ハード・ソフト両面から防災対策を強化いただくことを期待する。
- ・災害発生時において、行政としてできることと共助・自助が必要なことについて明確な情報発信が必要と考える。公助として担うべきことにはしっかりと取り組み、「できないことをできない」と明確に周知していくことが、いざというときに市民を守ることにつながるのではないかと考える。

目 次

評価様式

基本目標 1 安全で、利便性の高いまち

★01_01_防災体制の強化	1
★01_02_防災意識の向上	8
★01_03_都市基盤の計画的な維持管理	15
01_04_浸水被害の軽減	22
★02_01_災害情報の迅速かつ正確な提供	27
03_01_防犯体制の整備	34
★03_02_消費者被害へ意識啓発・相談体制の充実	39
04_01_幹線道路の整備	45
04_02_京阪連続立体交差事業の推進	53
04_03_広域的な幹線道路等の整備	58
★04_04_快適な歩行空間の整備	63
04_05_交通安全意識の向上	69
★05_01_公共交通機関の利用促進	74
★05_02_空き家・空き地等の適正管理及び活用促進	79
★05_03_公共交通を軸とした都市機能の集約化	85

基本目標 2 健やかに、生きがいを持って暮らせるまち

06_01_からだの健康の増進	91
06_02_こころの健康の維持・増進	101
06_03_難病患者が地域で安心して暮らせる環境づくり	107
07_01_健康に関する危機管理体制の充実	112
07_02_人と動物の共生	118

目 次

08_01_医療体制の充実	123
09_01_高齢者が地域で安心して暮らせる環境づくり	129
★09_02_介護予防の推進	137
09_03_高齢者の社会参加の促進	143
★10_01_社会参加の促進に向けた福祉サービスの充実	148
★10_02_障害への理解促進、地域との交流の場の提供	155
★11_01_人権教育・啓発の推進	160
11_02_人権侵害への支援の充実	165
11_03_多文化共生社会の形成の支援	171
★12_01_女性活躍の推進	177
13_01_平和意識の向上	185
基本目標3 一人ひとりの成長を支え、豊かな心をはぐくむまち	
14_01_安心して妊娠・出産できる環境づくり	190
15_01_子どもが安心して教育・保育を受けられる環境づくり	197
15_02_子育てに対する相談体制及び地域の子育て支援の充実	212
15_03_児童虐待等の発生予防、早期発見、早期対応	219
★15_04_子どもや若者が社会生活を円滑に営める環境づくり	225
16_01_小中一貫教育の推進	235
16_02_子どもの確かな学力の定着を図る	240
★16_03_高い指導力と意欲を持つ教職員の育成	250
16_04_子どもの豊かな人間性を育む	257
16_05_いじめの未然防止・早期発見	263
16_06_不登校対策の強化	269

目 次

16_07_教育環境の充実	275
16_08_支援教育の充実	282
16_09_子どもの健やかな身体の育成	287
17_01_生涯学習の推進	292
17_02_図書館運営・機能の充実	297
17_03_文化芸術活動の推進	306
17_04_スポーツ活動の推進	311
基本目標 4 地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち	
★18_01_枚方市駅周辺の再整備	321
18_02_枚方市駅周辺の賑わいづくりの創出	328
★19_01_歴史文化遺産の活用と情報発信の充実	333
★19_02_観光施策の推進	339
★19_03_若者の交流機会の創出	356
★19_04_国際化施策の推進	362
★20_01_雇用対策の充実	367
★21_01_市内産業の活性化	374
★21_02_創業（起業）できる環境づくりの充実	382
★22_01_農業の担い手の育成、就農促進	388
基本目標 5 自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち	
23_01_里山など豊かな自然空間の保全・継承	394
24_01_自然とふれあい親しめる場の確保	399
24_02_緑化活動の活性化	404
25_01_ごみ発生抑制を最優先にした 4 R の推進	409

目 次

26_01_大気・土壌汚染等の公害の未然防止	416
26_02_産業廃棄物などの発生抑制や適性処理の推進	421
★26_03_安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給	426
26_04_生活排水等の適正処理	432
★27_01_ゼロカーボンシティの推進	437
28_01_景観に配慮した美しいまち並みの形成	443
計画推進	
29_01_広報・広聴活動の充実	449
★29_02_D Xの推進	455
★30_01_市民などによるまちづくり活動の活性化	466
★31_01_行財政改革の推進	473
31_02_市有建築物の管理コストの平準化・計画的な更新・改修	483
31_03_公共施設の最適配置	488
31_04_組織体制の充実	493
31_05_個人情報の適正管理・セキュリティ対策の強化	498
31_06_目標達成に向け意欲的に学び成長する職員の育成	503
32_01_広域連携	509
★は外部評価対象施策（30施策）	

1. 施策の概要

施策シート[01_01]

危機管理部、健康福祉部

施策名称		防災体制の強化			
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち			
	施策目標等	1.災害に対する備えができているまち			
めざす姿（主観的満足度）		防災体制が整っている			
概要		大規模災害の発生に備え、市の防災体制の強化を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	1. 備蓄品管理の効率化 ○備蓄・物流管理システム導入				
	2. 新庁舎の防災拠点機能の検討				
	3. 広域避難訓練の推進				
	4. 家具固定器具の購入・設置支援				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度34.9%】

- ・年代別では、最も満足度が高いのは80歳以上で48.5%、最も低いのは19歳以下で18.8%である。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど、防災体制の満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、0.6ポイント上昇したものの、若者世代（24歳以下）では、6.8ポイント減少した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「枚方市備蓄目標量（重要物資備蓄品の備蓄量）達成率」、「訓練の実施校区数」、「災害ボランティアとして活動するための研修や講習会への参加人数」は、目標を達成している。「広域避難ルールの策定校区数」は、未達成だが、目標には近づいている。
- ・「消防団員の訓練や啓発活動の従事人数」は、未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 備蓄品管理の効率化

取り組みの内容	R6年度	担当課
備蓄品管理台帳のデジタル化として、備蓄・物流管理システムを導入・運用。	・備蓄・物流管理システム導入 ・図上訓練での活用	危機管理 対策推進 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
円滑にシステムを利用できるようにマニュアルの改定や活用機会の増加を目指していく必要がある。	備蓄・物資管理システムを導入し、図上訓練においても活用した。	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

2. 新庁舎の防災拠点機能の検討

取り組みの内容	R6年度	担当課
新庁舎建設にむけて大規模災害時の防災拠点（災害対策本部）としての機能を検討。	・必要機能の精査（施設機能、本部機能、最適なレイアウト） ・先進事例の把握	危機管理 対策推進 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き防災拠点としての機能の向上に向けた調査・検討を行っていく必要がある。	新庁舎ワーキングチームでは、各機能の精査や先進地視察等を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

3. 広域避難訓練の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
広域避難ルールの策定と訓練の実施。	広域避難ルールの策定と訓練の実施	危機管理 対策推進 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
対象校区にルールの策定を働きかけるとともに、策定済みの校区に対しては、校区内訓練や総合防災訓練への参加などを呼びかけ、訓練を通じて防災・減災への取り組みを推進させていく。	長尾校区における広域避難のルール策定と訓練を実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
広域避難ルールの策定校区数	避難所が浸水想定区域内に位置している15校区のうち、広域避難ルールを策定済みの校区数（累計）	8	校区	危機管理対策推進課	3. 広域避難訓練の推進
各年度の実績		7	校区	備考	
【施策指標の分析 R6】 新たに長尾校区において策定することができた。広域避難は避難する側と避難者を受ける側双方の合意が必要のため策定は容易ではないが、引き続き校区への働きかけを続けていく。					
広域避難（洪水時における避難）に関する訓練の実施校区数	広域避難（洪水時における避難）に関する訓練を実施した校区数（累計）	5	校区	危機管理対策推進課	3. 広域避難訓練の推進
各年度の実績		7	校区	備考	
【施策指標の分析 R6】 防災訓練で伊加賀・枚方の2校区に対し広域避難訓練を実施した。役員等による事前訓練を含めると4回の実施となる。					

4. 家具固定器具の購入・設置支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
災害時に避難が困難な避難行動要支援者を対象に、家具固定器具の補助及び設置支援を実施。	支援制度の構築（実施手法の精査）	危機管理 対策推進 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
令和8年度実施予定。	令和7年度にアンケートを実施し、手法の再検討を行う方針を決定した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
避難行動要支援者名簿対象者のうち新たに家具固定を実施した対象者数	現行の避難行動要支援者名簿掲載者16,000人のうち、新たに家具固定を実施した人数（家具固定の申請者数。）	—	件	危機管理対策推進課	4. 家具固定器具の購入・設置支援
各年度の実績		—	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和8年度実施予定。					

5. 枚方消防署の更新に向けた取り組み

取り組みの内容	R6年度	担当課
枚方消防署の移転・建て替えの実施。	・地元協議【市・消防組合】 ・アドバイザー契約に向けた仕様精査【市・消防組合】	危機管理 対策推進 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
旧中宮北小学校跡地を候補地案として選定し、優先して検討することとした。	地元校区コミュニティへの説明を実施した。	
年度ごとの達成状況	○	

※関連指標なし

6. 地域防災力の向上

取り組みの内容	R6年度	担当課
消防団と自主防災組織役員とのコミュニケーションを取る機会を設ける。	地域との連携を深めるため、自主防災組織ネットワーク会議に団長などが出席。	危機管理 対策推進 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
地域住民と接する機会を増やし、災害発生時の救助活動や避難所運営支援など、地域に根付いた組織を目指した活動を進めていく。	自主防災組織ネットワーク会議へ副団長以上の幹事が出席し、地域との連携を深めた。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
消防団員の訓練や啓発活動の従事人数	消防団員の訓練や啓発活動の従事人数（自主防災訓練への参加含む）	7,350	人	危機管理対策推進課	6. 地域防災力の向上
各年度の実績		5,333	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 自主防災組織が各校区で開催している防災訓練に依頼を受けて参加するとともに、毎月の定期訓練や啓発活動へも参加した。					

7. 災害時要配慮者の避難支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
災害時に活動するボランティアを募り必要な研修等を実施するとともに、避難支援者等として多くの市民の協力が得られるよう、地域住民等を対象とした研修や講習会を実施。	・災害ボランティアの募集・研修 ・地域での活動の支援を拡充。	健康福祉政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
災害発生時に災害ボランティアセンターの設置・運営や災害ボランティア活動が円滑に実施することができるよう、市民を対象とした周知・啓発活動に取り組む。	市民や団体を対象にした出前講座を実施したほか、現任の災害ボランティアを対象にした研修や災害ボランティアシミュレーション訓練を開催した。 (参加人数 522人)	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
要配慮者の支援等に関する、災害ボランティアとして活動するための研修や講習会への参加人数	要配慮者の支援等に関する、災害ボランティアとして活動するための研修や講習会に参加した延べ人数	100	人	健康福祉政策課	7. 要配慮者の避難支援
各年度の実績		522	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 講座や研修などを重点的に実施したことで、指標目標以上の参加者となった。今後も継続して取り組みを進めていく。					

8. 指定福祉避難所の設置

取り組みの内容	R6年度	担当課
災害時の避難生活において、特別の配慮が必要な方に適切に対処するため、直接避難に対応できる福祉避難所の指定に取り組む。	—	健康福祉政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
—	—	
年度ごとの達成状況		

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
直接避難型福祉避難所指定件数	直接避難型の福祉避難所として指定した件数	—	施設	健康福祉政策課	8. 指定福祉避難所の設置
各年度の実績		—	施設	備考	
【施策指標の分析 R6】 —					

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
枚方市備蓄目標量（重要物資備蓄品（アルファ化米と毛布の備蓄量）／（備蓄の備蓄量）達成率	（アルファ化米と毛布の備蓄量）／（備蓄目標量）	100	%	危機管理対策推進課	—
各年度の実績		100	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 大阪府及び府下市町村で構成する協議体で定められている備蓄すべき物資は確実に備蓄できている。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

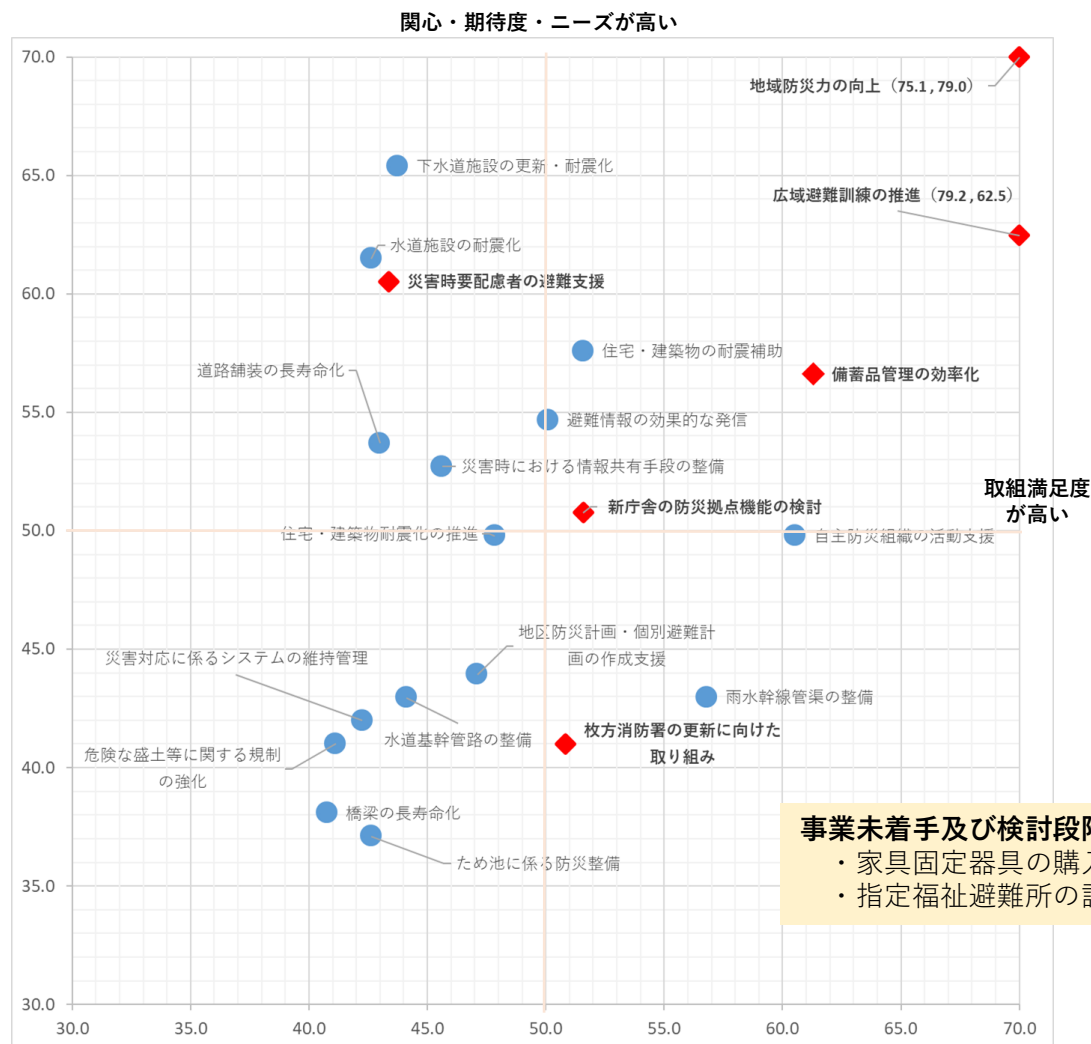
防災体制が整っている
01_01 防災体制の強化

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
34.9%	15.2%	49.9%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
36.2%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『防災体制が整っている』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『01_01 防災体制の強化』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

事業未着手及び検討段階の取り組み
・家具固定器具の購入・設置支援
・指定福祉避難所の設置

施策の分析

- ・「1. 備蓄品管理の効率化」、「3. 広域避難訓練の推進」、「6. 地域防災力の向上」は、関心・期待度・ニーズと取組満足度がともに高く、昨今の災害発生に対する防災意識の高まりが影響していると考えられる。
- ・「7. 災害時要配慮者の避難支援」は関心・期待度・ニーズは高いものの取組満足度は低い。
- ・「2. 新庁舎の防災拠点機能の検討」は、関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに平均的である。
- ・「5. 枚方消防署の更新に向けた取り組み」は、取組満足度は平均的であるものの、関心・期待度・ニーズは低い。
- ・「8. 指定福祉避難所の設置」は、令和7年度の設置に向けて取り組みを進めている。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、引き続き、災害発生時に迅速に対応できるよう、効率的な備蓄品管理の推進や、地域防災力の向上に向けた地域との連携強化を進めていく。
- ・地域防災力の向上のため、住民一人一人が防災意識を持ってその知識や技術を身につけ、自助ができる住民を増やす取り組みが必要であるとともに、特に若者世代の満足度向上のためのPRと取り組みへの参加促進などを積極的に行っていく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・おおむね目標値、あるいは目標値を上回る実績が得られており、市民満足度も少し高いという結果であることから、当該施策を継続することで市民への意識の広がりや満足度の向上を期待する。
- ・想定されている災害に対して、施策の対象や方法が限定的であるため、自助も共助も、公助がなければ成り立たない現実があることを踏まえて、市民一人一人の状況に合わせた災害対策が展開される必要がある。
- ・市民意識調査からも、枚方市が選ばれる（住みよい）市であり続けるためには、当該施策により力を入れる必要がわかり、重要な施策といえる。
- ・南海トラフ地震に備え、ハード・ソフト両面から防災対策を強化いただくことを期待する。
- ・災害発生時において、行政としてできることと共助・自助が必要なことについて明確な情報発信が必要と考える。公助として担うべきことにはしっかりと取り組み、「できないことをできない」と明確に周知していくことが、いざというときに市民を守ることにつながるのではないかと考える。

1. 施策の概要

施策シート【01_02】

危機管理部、都市整備部

施策名称		防災意識の向上			
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち			
	施策目標等	1.災害に対する備えができているまち			
めざす姿（主観的満足度）		防災体制が整っている			
概要		市民の防災意識の啓発や建築物の耐震化の促進など、地域防災力の向上を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	1. 住宅・建築物の耐震補助 2. 住宅・建築物耐震化の推進 3. 地区防災計画・個別避難計画の作成支援 4. 自主防災組織の活動支援 5. 危険な盛土等に対する規制の強化				
	R7年度	6. 既存民間建築物吹付けアスベスト含有調査補助			
	R8年度	3. 地区防災計画・個別避難計画の作成支援 ○全44校区での地区防災計画策定完了			
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度34.9%】

- ・年代別では、最も満足度が高いのは80歳以上で48.5%、最も低いのは19歳以下で18.8%である。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど、防災体制の満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、0.6ポイント上昇したものの、若者世代（24歳以下）では、6.8ポイント減少した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・「耐震補助制度を活用し改修・除却された木造住宅等の件数（累計）」、「耐震化に関する所有者への周知啓発件数」、「自主防災組織による訓練実施回数」は、目標を達成している。「地区防災計画の策定件数」、「個別避難計画の策定件数（自治会）」は、未達成だが目標には近づいている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 住宅・建築物の耐震補助

取り組みの内容	R6年度	担当課
旧耐震基準の住宅・建築物に対する各種耐震補助の実施。	補助制度の運用	住宅まちづくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・耐震診断で終了した物件に対する改修工事への移行促進など所有者に対する意識啓発が必要。	・昨年度と比較して、各補助メニューの申請件数を伸ばす事が出来た。(累計850件)	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
耐震補助制度を活用し改修・除却された木造住宅等の件数（累計）	「枚方市木造住宅耐震改修事業補助金交付要綱」に基づく木造住宅耐震改修補助等により改修・除却（解体）した件数（累計）	850	件	住宅まちづくり課	1. 住宅・建築物の耐震補助 2. 住宅・建築物耐震化の推進
各年度の実績		850	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 補助要件の緩和に加え、年初の震災により申請件数が増加した結果、目標を達成できた。					
耐震化に関する所有者への周知啓発件数	耐震化が進んでいない地域へのアンケートの発送数及び耐震診断後のフォローアップのDM数の合計	500	件	住宅まちづくり課	1. 住宅・建築物の耐震補助 2. 住宅・建築物耐震化の推進
各年度の実績		967	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 例年の周知啓発に加え、補助要件緩和による再度のフォローアップを実施したことにより目標以上の達成となった。					

2. 住宅・建築物耐震化の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
旧耐震基準の住宅・建築物に対する各種耐震化の必要性と各種耐震補助制度の周知・啓発。	各種防災イベントへの参加、出前講座の実施	住宅まちづくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・継続的な周知・啓発と共に、耐震化が進んでいない地域に対し、出前講座等を活用するなど、より効果的な啓発手法を工夫する必要がある。	・出前講座は実施する事が出来なかったが、新規手法として市公式LINE・YouTubeを活用した新たな周知・啓発を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

3. 地区防災計画・個別避難計画の作成支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
地区防災計画の策定支援及び個別避難計画の策定支援を実施。	・地区防災計画の策定（8校区） ・個別避難計画の策定支援（1自治会）	危機管理 対策推進 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
校区や自治会が地域の特性に応じた計画を策定できるように取り組みを推進していく。	・地区防災計画の策定：11校区 ・個別避難計画の策定支援：1自治会	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
地区防災計画の策定件数	市の地域防災計画に掲載した地区防災計画数（校区自主防災組織、自治会などが作成）	地区防災計画策定校区数（累計）35	校区	危機管理対策推進課	3. 地区防災計画・個別避難計画の作成支援
各年度の実績		34	校区	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度は全体版（10校区0自治会）、届出避難所版（3自治会）、広域避難版（1校区）の合計11校区、3自治会にて策定。					
個別避難計画の策定件数（自治会）	個別避難計画の策定に至った自治会数	個別避難計画策定自治会数（累計）3	自治会	危機管理対策推進課	3. 地区防災計画・個別避難計画の作成支援
各年度の実績		2	自治会	備考	
【施策指標の分析 R6】 1自治会（西船橋自治会）策定でR6の目標値（1自治会）は達成。 （※西船橋自治会内で3件策定）					
個別避難計画の策定件数（セルフプラン方式）	セルフプラン方式により個別避難計画の策定に至った件数（累計）	—	件	危機管理対策推進課	3. 地区防災計画・個別避難計画の作成支援
各年度の実績		—	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和7年度の事業開始に向けた準備を行った。					

4. 自主防災組織の活動支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
校区自主防災組織による資機材設置訓練や避難所開設訓練（訓練準備）の実施を引き続き支援。 地域の防災ルール（地区防災計画など）作成・改善の支援。	自主防災訓練結果をフィードバックし、マニュアルや地区防災計画を策定又は改善	危機管理 対策推進 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き学校や校区と協議を重ね、避難所開設訓練や地区防災計画の改善の支援に取り組んでいく。	地区防災訓練の作成支援と避難所運営マニュアルのひな型の改定を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
自主防災組織による訓練実施回数	自主防災組織が実施した訓練の総回数	42	回	危機管理対策推進課	4. 自主防災組織の活動支援
各年度の実績		43	回	備考	
【施策指標の分析 R6】 ほぼ予想どおりの結果となった。引き続き訓練実施に向けた打ち合わせ等の支援に努めていく。					

5. 危険な盛土等に対する規制の強化

取り組みの内容	R6年度	担当課
災害時における崖崩れや土砂の流出を未然に防止するため、宅地造成及び特定盛土等規制法に基づき規制を強化。	・市全域を規制区域に指定 ・法に基づく許可・検査業務等の実施 ・既存盛土の応急対策の必要性判断等の調査実施	審査指導課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
法に基づく許可・検査業務等の実施	令和6年4月1日に市全域を規制区域に指定し、また、法に基づく基礎調査を実施し、市内の既存盛土の分布状況等の把握を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

6. 既存民間建築物吹付けアスベスト含有調査補助

取り組みの内容	R6年度	担当課
吹付けアスベストが施工されているおそれがある建築物の所有者が実施する分析調査に対し、国が事業費を補助。	—	審査指導課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
令和6年度実績なし（令和7年度から事業開始）	補助制度を創設した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
吹付けアスベスト含有調査補助制度を活用し、分析調査を実施した件数（累計）	「枚方市既存民間建築物吹付けアスベスト含有調査補助金交付要綱」に基づき、吹付けアスベストの分析調査を実施した件数	—	件	審査指導課	6. 既存民間建築物吹付けアスベスト含有調査補助
各年度の実績		—	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度実績なし（令和7年度から事業開始）					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

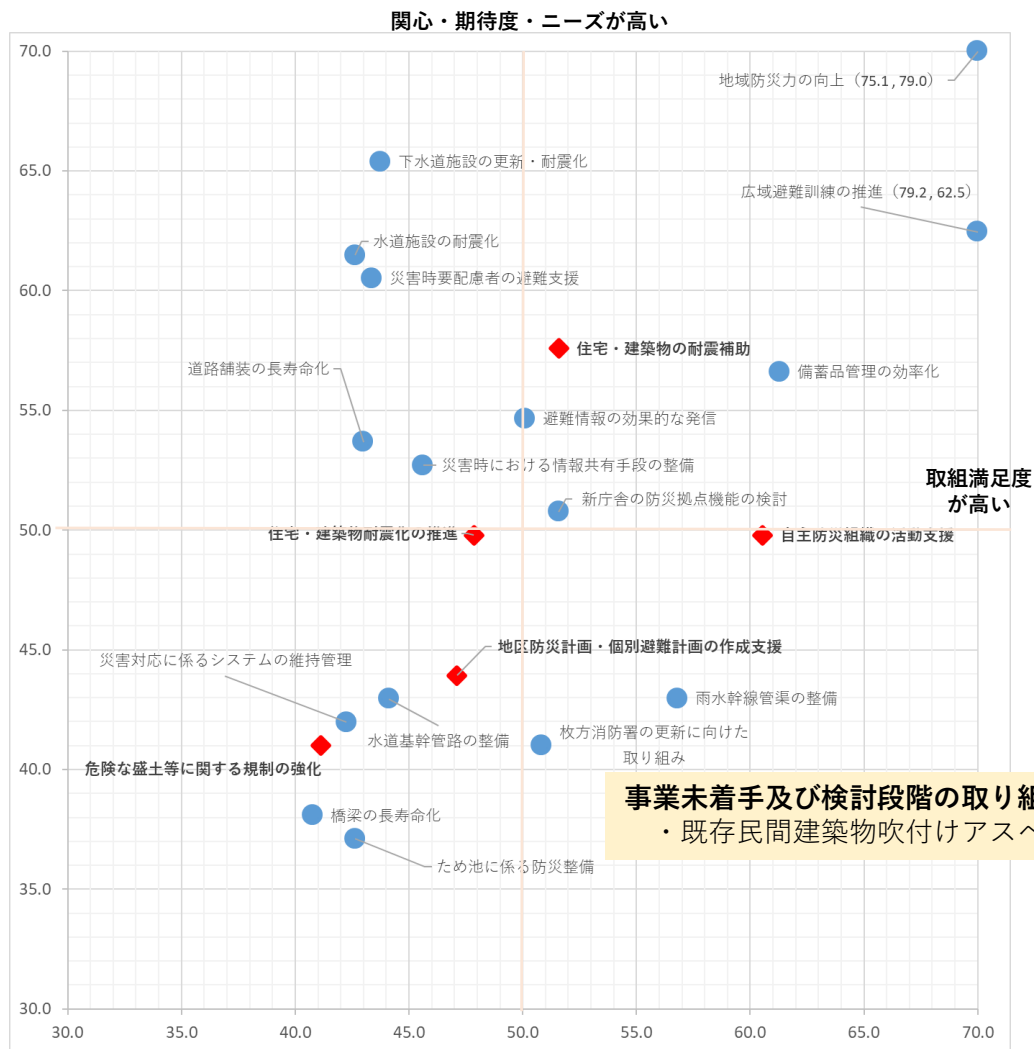
防災体制が整っている
01_02 防災意識の向上

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
34.9%	15.2%	49.9%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
36.2%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『防災体制が整っている』に紐づく全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施策シート『01_02 防災意識の向上』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

事業未着手及び検討段階の取り組み

施策の分析

- ・「1. 住宅・建築物の耐震補助」の関心・期待度・ニーズは高いものの、取組満足度は平均的である。
- ・「4. 自主防災組織の活動支援」の取組満足度は高いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。
- ・「2. 住宅・建築物耐震化の推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに平均的である。
- ・「3. 地区防災計画・個別避難計画の作成支援」、「5. 危険な盛土等に対する規制の強化」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。
- ・「6. 既存民間建築物吹付けアスベスト含有調査補助」は、令和7年の既存民間建築物吹付けアスベスト含有調査補助制度の運用に向けて制度構築をした。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、引き続き、住宅・建築物の耐震化や有事の行動を一人ひとりが考える個別避難計画の作成支援など、地域の防災力向上に向けた取り組みを推進していく。
- ・「2. 住宅・建築物耐震化の推進」は、引き続き周知・啓発を継続するとともに、新たなP R手法の検討を進める。
- ・「3. 地区防災計画・個別避難計画の作成支援」は、引き続き地域への働きかけを行い、地域との連携強化を進めていくとともに、災害発生時の動きを一人一人が考えるきっかけとなるよう取り組みを進めていく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・内部評価の値が高いものの、市民満足度の経年推移はほぼ横這いであるため、取り組み実績のP Rが必要である。
- ・内部評価は、施策やその指標の動きについての評価であり、それ自体は誤りではない。しかしながら、施策の目標や上位の政策との関係からすると、市民の防災行動が適切に発動されるような状況をつくることにどこまで貢献しているのか、不明確である。なお、市民の防災意識の向上を目指すのであれば、すべての災害対策においてその目標が施策の直接目標とともに並行して市民意識が変化することが共通の目標におかれる必要があり、そこに向けて施策を統合していくくらいの姿勢が必要である。
- ・耐震の施策など個別に進んでいることは確認できるが、結局市民の防災意識の醸成や、行動変容が促されていないことから、施策の編成や取り組み方も組み替えていく必要があるのではないか。
- ・若者の満足度が低い点からも地区の災害特性を、我が事として捉える学習の場づくり、及び気運の醸成に工夫が必要である。
- ・地道な啓発活動や働きかけが、いざという時の備えとなるので、引き続き取り組みを推進していただきたい。
- ・高齢者や障害者など自宅で長い時間にわたり生活されている方々やその家族にとっては、個別避難計画の作成は命を守るためにとても大切な取り組みといえる。策定済みの自治会での取り組みに至る経緯や取り組みによる効果などを未策定の校区や自治会にも継続的に周知する働きかけを行っていただきたい。

1. 施策の概要

施策シート【01_03】

都市整備部、土木部、上下水道部

施策名称		都市基盤の計画的な維持管理						
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち						
	施策目標等	1.災害に対する備えができています						
めざす姿（主観的満足度）		防災体制が整っている						
概要		道路、橋梁、上下水道などの都市基盤を計画的に維持管理し、災害に強いまちづくりを進める。						
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度		R8年度		R9年度		
	1. 水道施設の耐震化 2. 下水道施設の更新・耐震化 3. 水道基幹管路の整備 4. 河川の改良 5. 橋梁の長寿命化 6. 道路舗装の長寿命化 7. 鉄道施設の耐震補助		7. 鉄道施設の耐震補助 ○耐震補助の実施					

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度34.9%】

- ・年代別では、最も満足度が高いのは80歳以上で48.5%、最も低いのは19歳以下で18.8%である。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど、防災体制の満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、0.6ポイント上昇したものの、若者世代（24歳以下）では、6.8ポイント減少した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、すべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 水道施設の耐震化

取り組みの内容	R6年度	担当課
増大する老朽化施設や、発生が予想される大地震等への対応のため、「枚方市水道施設整備基本計画」に基づき、水道施設の更新・耐震化を推進。	主な事業箇所 ・中宮浄水場更新耐震化 ・妙見山配水池更新耐震化 ・送配水管更新耐震化(中宮浄水場～春日受水場他)	浄水課 上水道工務課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き「枚方市水道施設整備基本計画」に基づき、水道施設の更新・耐震化に取り組む。 引き続き「枚方市水道施設整備基本計画」に基づき、管路の更新・耐震化を行い安定した水道水の供給に取り組む。	中宮浄水場更新耐震化工事の実施、妙見山配水池更新基本設計委託の契約を締結した。 送配水管更新耐震化工事を実施し、中宮浄水場～春日受水場間送水管更新工事を発注した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
浄水施設の耐震化率	(耐震対策の施された浄水施設能力／全浄水施設能力)	0	%	浄水課	1. 水道施設の耐震化
各年度の実績		0	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和9年度の工事完成をめざし、膜ろ過棟・前処理施設の築造に取り組んでいるため、令和6年度末の浄水施設の耐震化率は0%である。					
配水池の耐震化率	(耐震対策の施された配水池有効容量／配水池有効容量) (R12年度：79.4%予定)	71.3	%	浄水課	1. 水道施設の耐震化
各年度の実績		71.3	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和12年度の工事完成をめざし、妙見山配水池の更新・耐震化の基本設計に取り組んでいるため、令和6年度末の配水池の耐震化率は71.3%である。					
管路の耐震化率	(耐震管の延長/管路の総延長)	29.5	%	上水道工務課	1. 水道施設の耐震化
各年度の実績		29.9	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 他企業と競合する一部事業については、事業間調整により次年度繰越となったものの、指標については目標通り達成できた。					

2. 下水道施設の更新・耐震化

取り組みの内容	R6年度	担当課
増大する老朽化施設や、発生が予想される大地震等への対応のため、「枚方市下水道整備基本計画」に基づき、下水道施設の更新・耐震化を推進。	主な事業箇所 ・溝谷川ポンプ場受変電設備更新 ・サダポンプ場ポンプ棟耐震化	上下水道政策課、下水道整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
雨水ポンプ場の特性により、雨季での施工が困難な事業や、更新と耐震化の施工箇所が重複するなどの課題があり、効率的な取り組みが必要となる。	令和6年度予定の雨水ポンプ場に係る更新・耐震化については、一部繰越が生じたが、概ね達成することができた。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
ポンプ場の耐震化率	(耐震性を有する施設数/ポンプ場内施設数(77施設※)) ※雨水ポンプ場11施設、汚水ポンプ場2施設、計13ポンプ場内の施設数	33.8	%	上下水道政策課、下水道整備課	2. 下水道施設の更新・耐震化
各年度の実績		39.0	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 ポンプ棟の耐震化工事(3施設)や耐震診断結果(6施設)により、耐震性を有する施設が増加した。(30施設/77施設)					

3. 水道基幹管路の整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
基幹管路の送水管を更新。	中宮浄水場から春日受水場間の送水管更新	上水道工務課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き「枚方市水道施設整備基本計画」に基づき、管路の更新・耐震化を行い安定した水道水の供給に取り組む。	中宮浄水場～春日受水場間送水管更新工事を発注した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
大規模断水を伴う管路事故件数	管路事故件数（断減水の影響が100戸を超えるもの）	0	件	上水道工務課	3. 水道基幹管路の整備
各年度の実績		0	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 指標の達成度については、目標通りであった。基幹管路工事発注手続きについては、予定通り事業の発注を行うことができた。					

4. 河川の改良

取り組みの内容	R6年度	担当課
枚方市準用河川（穂谷川・宗谷川）整備基本計画を策定し、計画的に河道改修や護岸工事などの整備事業を推進。	河道改修や護岸工事などの整備順序や事業化の時期を検討し、事業化の時期が決まり次第、事業を推進	道路河川整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
今後、河道改修や護岸工事などの整備順序や事業化の時期を検討し、事業化の時期が決まり次第、事業を推進する。	事業化の時期の検討	
年度ごとの達成状況	△	

※関連指標なし

5. 橋梁の長寿命化

取り組みの内容	R6年度	担当課
橋梁の修繕補強工事を実施。	無名58号橋、無名176号橋、無名169号橋	道路河川管理課、道路河川整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
「橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、国の交付金を積極的に活用し、計画的な修繕補強工事を実施する。	無名58号橋、無名176号橋、無名169号橋	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
橋梁長寿命化計画における修繕率	橋梁長寿命化修繕計画に基づく整備済橋梁数／計画における整備予定橋梁数	46	%	道路河川管理課、道路河川整備課	5. 橋梁の長寿命化
各年度の実績		46	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 枚方市橋梁長寿命化計画に基づき、予防保全並びに維持管理費の縮減と平準化を図るため、構造物の劣化補修並びに耐震基準に基づく修繕補強工事をを行っている。令和6年度は、3橋の修繕工事を実施した。					

6. 道路舗装の長寿命化

取り組みの内容	R6年度	担当課
道路の大規模修繕、改築までのライフサイクルを延長し、コストの平準化を図る。計画更新、計画対象路線の拡充。	・予防保全型補修工事 ・次年度へ向けた詳細設計委託	道路河川補修課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・主要道路リフレッシュ整備事業との計画共有を図り、また更なる計画的な予防保全型の維持補修を推進するため、計画対象路線を拡充し、効率的な維持管理を行う。	・予防保全型補修工事 ・詳細設計委託 ・計画対象路線の追加	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
舗装長寿命化計画における補修延長距離	舗装補修を実施した年間補修延長距離	2,500	m	道路河川補修課	6. 道路舗装の長寿命化
各年度の実績		3,389	m	備考	
【施策指標の分析 R6】 予防保全型補修について計画通りに進めた。今後も引き続き実施していく。					

7. 鉄道施設の耐震補助

取り組みの内容	R6年度	担当課
列車の安全・安定輸送、鉄道利用者の安全確保等を図るため、鉄道施設の耐震補強事業に要する経費の一部を補助。	—	都市計画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
令和6年度に制定した補助金交付要領に基づき、国・大阪府と協調して鉄道事業者が実施する鉄道施設の耐震補強事業費の一部を補助することで、鉄道施設の耐震補強事業を推進する。	枚方市鉄道施設耐震補強事業費補助金交付要領の制定	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

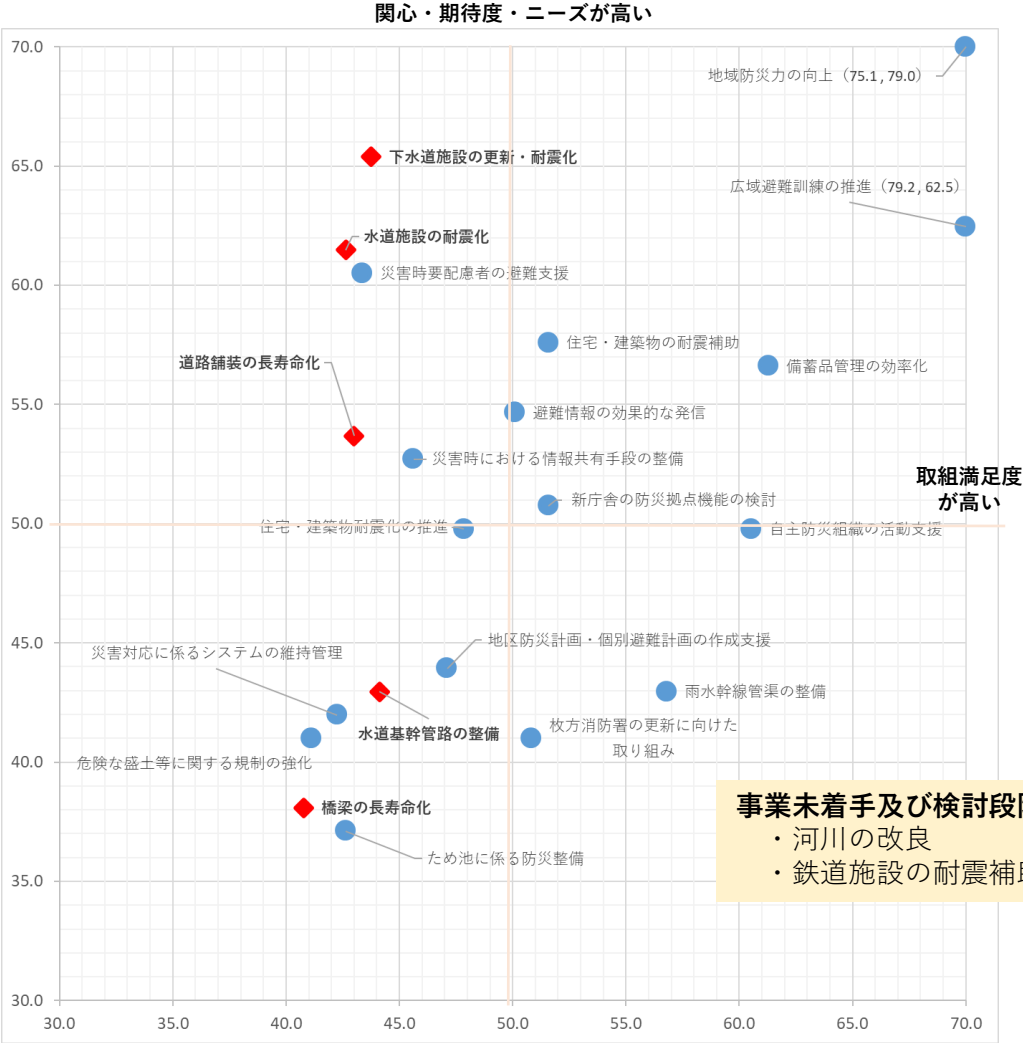
防災体制が整っている
01_03 都市基盤の計画的な維持管理

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
34.9%	15.2%	49.9%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
36.2%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『防災体制が整っている』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『01_03 都市基盤の計画的な維持管理』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

事業未着手及び検討段階の取り組み

- ・河川の改良
- ・鉄道施設の耐震補助

施策の分析

- ・「1. 水道施設の耐震化」、「2. 下水道施設の更新・耐震化」の関心・期待度・ニーズは高いものの、取組満足度は低いことから、昨今の上下水道管路の老朽化に起因する事故等が影響していると考えられる。
- ・「6. 道路舗装の長寿命化」は、取組満足度が低いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。
- ・「3. 水道基幹管路の整備」、「5. 橋梁の長寿命化」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。
- ・「4. 河川の改良」は、取り組みに遅れがあり、現在取り組みを進めているところである。
- ・「7. 鉄道施設の耐震補助」は、令和7年の鉄道施設の耐震補強事業に向けて、補助金交付要領を制定した。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

・施策全体の方向性として、インフラは市民生活の都市基盤施設であることから、引き続き、道路、橋梁、上下水道について計画に基づいた維持管理を行い、取り組みを推進していく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・おおむね目標値を上回る実績が得られており、目標値を達成できるように意識しながら取り組みを継続することが減災や二次被害の抑制にもつながるのではないかと。
- ・全体的に満足度が低い傾向にあるが、市民生活を支える基盤施設であるため、引き続き取り組みを推進していただきたい。
- ・内部評価は事業進捗（アウトプット）にもっぱら関心がある。市民生活にとって、どのような成果が見込まれるのか、この点が見える化していく必要がある。
- ・事業実施については、計画的に進めるしかないし、国の資金を上手に使っていくことも重要である。しかしながら、市民の関心や満足度については、低いこともそのまま受け入れているようである。市民生活を支える基盤であることを積極的に訴えていくとともに、市民理解を深めていく必要がある。
- ・各地で発生している下水管損傷事故がマスコミでも取り上げられ、市民の関心がマトリクス図からも高いことが伺える。枚方市が所管する下水道だけではなく、大阪府が所管する下水道も含めて、市・府が連携し、安全への取り組みを推進していただきたい。
- ・ファシリティマネジメントに基づき、適切に進める必要がある。
- ・インフラの維持管理は、必要不可欠のものであるから計画等に沿った推進が必要。一方で市民の安全安心に対する意識に応えるため、マップや図表などを駆使して、市民へ分かりやすく伝える工夫も必要である。
- ・下水道管点検作業中に作業員が亡くなる事故が全国で発生しており、市民の安全に加え、点検作業に関わる方々の安全も守ることも大切である。そのため、近隣市町村や大阪府とも連携しながら、これまでの点検作業の中でもヒヤリハットを含む事故につながりそうな事案はなかったかについて関係者間で共有する場や、点検作業を行う各事業所で安全管理のためにどのようなことを実施しているかについて報告する場などを、関係者の過重な負担のない範囲で定期的に設けることも必要ではないか。

1. 施策の概要

施策シート【01-04】

上下水道部

施策名称		浸水被害の軽減			
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち			
	施策目標等	1.災害に対する備えができています			
めざす姿（主観的満足度）		防災体制が整っている			
概要		公共下水道の雨水排水施設の計画的な整備を進めるなど、浸水被害の軽減を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度			R7年度	
	1. 雨水幹線管渠の整備				
				R8年度	
				R9年度	
				1. 雨水幹線管渠の整備 ○整備完了（藤阪地区） ○整備工事開始（内野排水路）	

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度34.9%】

- ・年代別では、最も満足度が高いのは80歳以上で48.5%、最も低いのは19歳以下で18.8%である。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど、防災体制の満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、0.6ポイント上昇したものの、若者世代（24歳以下）では、6.8ポイント減少した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 雨水幹線管渠の整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
下水道事業計画に基づく雨水幹線管渠を整備 ①藤阪元町地区 ②内野排水路	①整備に向けた支障物件の移設及び事業用地取得 ②基礎検討	上下水道政策課、下水道整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
①狭い生活道路での施工となり、地域の方々のご理解・協力を得ながら、令和9年度の事業完成に向け取り組む。 ②基礎検討を踏まえ、基本設計委託により整備の方向性を明確にする。	①工事に先立ち、ガス、水道、NTTの支障物件の移設工事を行った。 ②基礎検討を実施した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
主要な雨水幹線管渠の整備率	主要な雨水幹線管渠の整備延長距離／計画延長距離	46.3	%	上下水道政策課、下水道整備課	1. 雨水幹線管渠の整備
各年度の実績		46.3	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 指標の上昇はないものの、藤阪元町地区の整備が完了する令和9年度に向けて取り組みを進めている。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

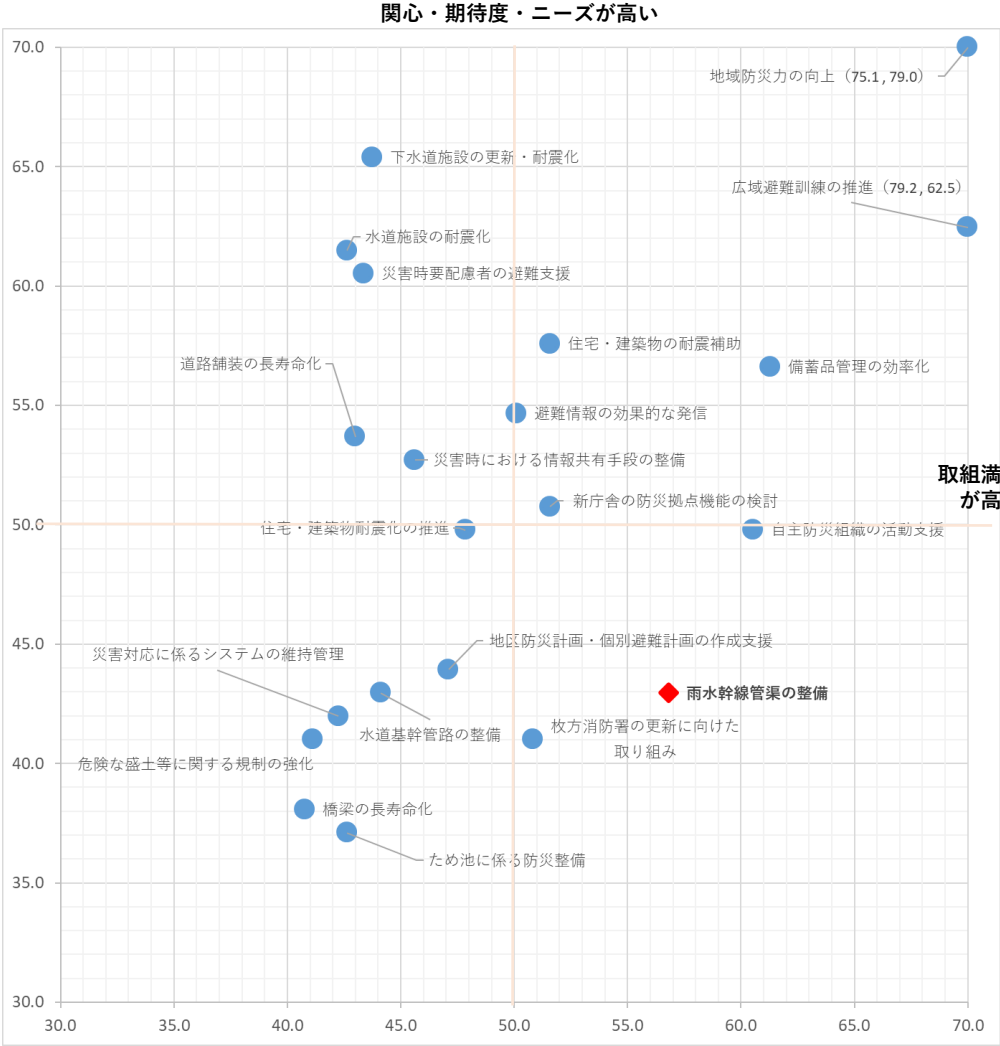
防災体制が整っている
01_04 浸水被害の軽減

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
34.9%	15.2%	49.9%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
36.2%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『防災体制が整っている』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『01_04 浸水被害の軽減』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

・「1. 雨水幹線管渠の整備」は、関心・期待度・ニーズが低いものの、取組満足度は高い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性として、浸水被害リスクに備えるため、関係機関との協議も進めながら引き続き排水施設の整備を図っていく。

1. 施策の概要

施策シート【02_01】

危機管理部、観光にぎわい部

施策名称		災害情報の迅速かつ正確な提供	
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち	
	施策目標等	2.災害時に、迅速・的確に対応できるまち	
めざす姿（主観的満足度）		防災体制が整っている	
概要		緊急情報をさまざまな情報発信手段を活用しながら、迅速かつ正確に地域に提供する体制を整える。	
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	1. 災害時における情報共有手段の整備 2. 災害対応に係るシステムの維持管理 3. 避難情報の効果的な発信 4. 3Dハザードマップの作成 5. ため池に係る防災整備	
	R7年度		
	R8年度		
	R9年度	4. 3Dハザードマップの作成【拡充】 ○ハザードマップの委託発注	

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度34.9%】

- ・年代別では、最も満足度が高いのは80歳以上で48.5%、最も低いのは19歳以下で18.8%である。
- ・枚方市を住みよいと感じる市民ほど、防災体制の満足度が高い傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、0.6ポイント上昇したものの、若者世代（24歳以下）では、6.8ポイント減少した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「情報伝達手段の整備件数」は目標を達成している。「自動音声配信電話サービスへの登録者数」、「避難情報を認知している市民の割合」は、未達成だが、目標には近づいている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 災害時における情報共有手段の整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
災害等発生時に、庁内関係部署や警察、消防・その他関係機関と情報の共有を行い、連携を図るため、庁内等における情報共有手段の整備、維持	・他機関との継続的な通信訓練 ・現行デジタルMCA無線に代わる庁内情報伝達手段（令和11年5月末で現サービスが終了）の整備に向けた調査（その他デジタルMCA無線の後継機種かIP無線を導入すべきか等の判断資料の収集等）	危機管理政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
市組織の非常時の情報伝達手段として整備するデジタルMCA無線について、令和11年5月末のサービス終了をもって使用できなくなることから、その他の非常時情報伝達手段の導入を検討する必要がある。	定期的な通信訓練のほか、デジタルMCA無線に代わる市組織間の非常時情報伝達手段について情報収集を行った。	
年度ごとの達成状況	○	

※関連指標なし

2. 災害対応に係るシステムの維持管理

取り組みの内容	R6年度	担当課
①防災行政無線システム（同報系・地域防災系）の保守 ②気象情報システム計測震度計等の保守	既存システムの適切な保守	危機管理 対策推進 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
各種システムの保守を行い、災害時に適切に使用できる環境を維持した。	定期的な運用保守を実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
災害時に遅滞なく市民へ情報伝達できた割合	（エリアメール・緊急速報メール発信回数／避難情報発信回数）＋（自動音声配信サービス発信回数／避難情報発信件数）}／2	100	%	危機管理対策 推進課	2. 災害対応に係るシステムの維持 管理
各年度の実績		—	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 避難指示等の発令を必要とする災害は発生しなかった。					
情報伝達手段の整備件数	既存の情報伝達手段は、テレビ、ラジオ、防災行政無線、防災行政無線電話応答サービス、ホームページ、エリアメール・緊急速報メール、SNS（LINE、X）、自動音声配信電話サービス、Vacanの合計10種。	10	件	危機管理対策 推進課	2. 災害対応に係るシステムの維持 管理 3. 避難情報の効果的な発信
各年度の実績		10	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 目標数値には達しているが、新たな導入に向け効果的な手段を検討中。					

3. 避難情報の効果的な発信

取り組みの内容	R6年度	担当課
自動音声配信電話サービスの普及、災害情報を広く効果的に伝達するため、デジタルサイネージなどを活用した情報の発信	情報伝達手段の追加を検討	危機管理 対策推進 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
自動音声配信電話の要件を満たす方が広く市内に散らばっているため、引き続き制度案内を行っていく必要がある。	災害時の情報伝達手段の追加を検討した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
自動音声配信電話サービスへの登録者数	自動音声配信電話サービスへの登録者数	90	人	危機管理対策 推進課	3. 避難情報の効果的な発信
各年度の実績		80	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 イベント等でパンフレットを配布して制度周知に努めた。					
避難情報を認知している市民の割合	（避難情報を認知している市民）／（アンケート回答者数）	80	%	危機管理対策 推進課	3. 避難情報の効果的な発信
各年度の実績		76	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 スマホアンケートにより把握。					

4. 3Dハザードマップの作成

取り組みの内容	R6年度	担当課
視覚的にわかりやすい3Dハザードマップの作成	他市事例などの情報を収集	危機管理 対策推進 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
防災ガイドの全戸配布に向け、直感的に災害リスクが把握できる3Dマップの導入を検討していく必要がある。	複数の3Dモデルを浸水リスクに重ね合わせる方法の検討を実施した。	
年度ごとの達成状況	○	

※関連指標なし

5. ため池に係る防災整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
避難基準の策定に必要な議論や情報収集等の実施、避難基準の策定に向けた資料の素案作成、歩行困難度や家屋倒壊危険度の検討、公表	ため池ハザードマップの改定	農業振興 課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
ハザードマップや避難基準を災害時の避難行動に役立てることが必要。ハザードマップ、避難基準については、危機管理部と協議しながら、公表し、周知を図る。	16池でため池ハザードマップを改定し、新たに1池のマップを作成した。	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

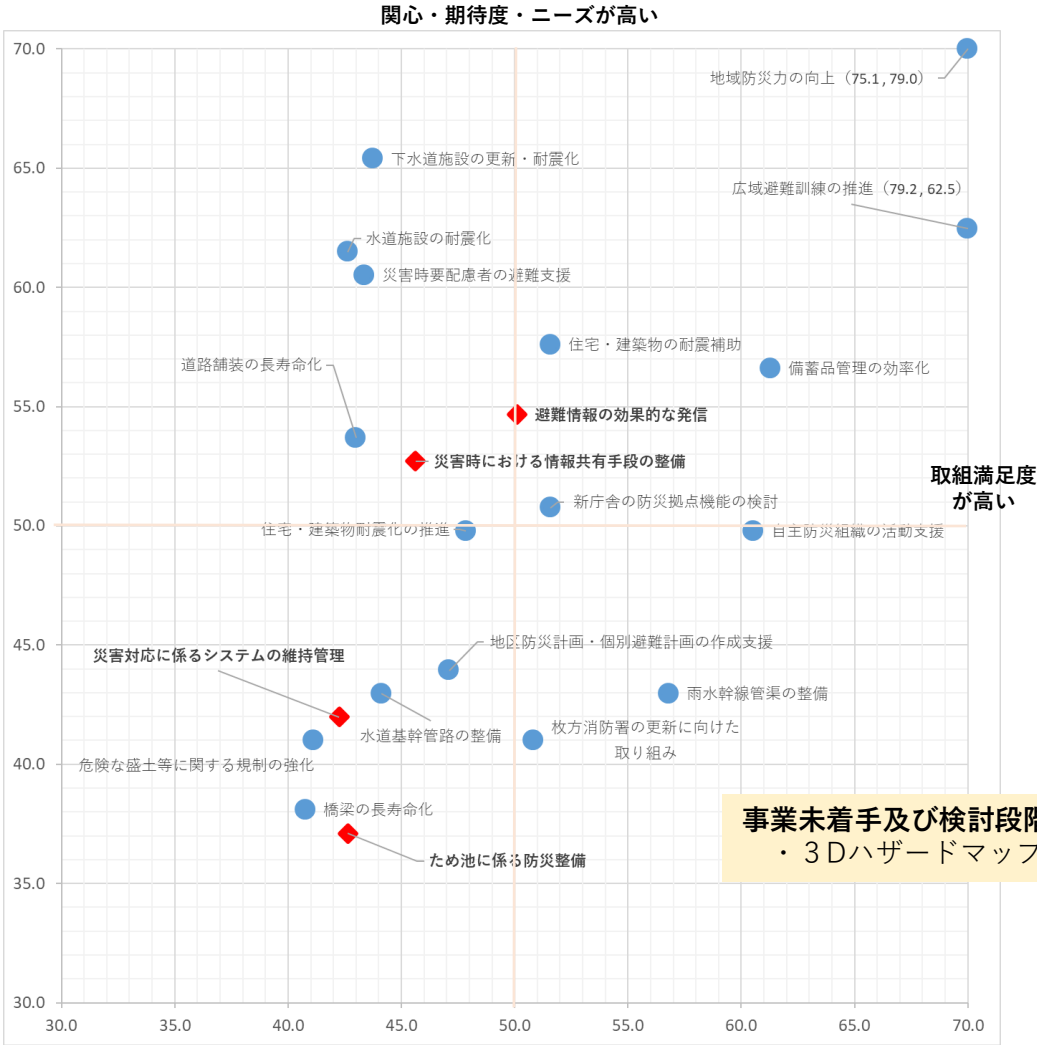
防災体制が整っている
02_01 災害情報の迅速かつ正確な提供

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
34.9%	15.2%	49.9%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
36.2%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『防災体制が整っている』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『02_01 災害情報の迅速かつ正確な提供』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 災害時における情報共有手段の整備」、「3. 避難情報の効果的な発信」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに平均的である。
- ・「2. 災害対応に係るシステムの維持管理」、「5. ため池に係る防災整備」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性として、今後も引き続き、実際に災害が発生した際に、滞りなく市民に情報発信ができるように、ホームページやSNSなどを活用し、取り組みを周知することで、特に若い世代など、市民の関心や満足度向上を目指す。また、関係部署間で連携し、体制を整備しながら組織能力を高めていく。
- ・「2. 災害対応に係るシステムの維持管理」、「5. ため池に係る防災整備」については、取り組みを進める中で、周知により認知度を上げていく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・おおむね目標値、あるいは目標値を上回る実績が得られており、当該施策を継続・発展させることで、市民への意識の広がりや満足度のさらなる向上を期待する。
- ・目標未達である「自動音声配信電話サービスへの登録者数」、「避難情報を認知している市民の割合」の目標達成に向けて取り組みを進めていただきたい。
- ・情報発信については、おおむね適切に進んでいるが、各種の危険情報災害情報が市民に提供されていることが十分認知されていない状況がある。
- ・各種の危険情報災害情報の有効性、市民への周知度などは、今後さらに拡充していく必要があり、広報手段なども含めて、検討をしていかなければならない。伝達手段や情報の内容の改定・改善も今後必要であるが、特に情報接触はあっても意識や行動につながらないことが多いと思われるので、市民の認知度を上げていくこと、そのための対策を具体的に市民参加や他の機関との連携で進めていく必要がある。学校など教育機関や福祉施設などと連携してみてはどうか。
- ・災害発生後には、ネットや電話を利用したやり取りが困難になる可能性が高いことから、避難所等に設置される掲示板の効果的な活用の検討も大切である。そのため、掲示板の掲載内容について、正確な情報収集の方法や掲載優先度の高い情報とは何かなどについて、関係者間であらためて協議、整理しておくことも求められる。
- ・災害時の情報収集にあたっては、人流、物流、インフラ監視など統合されたシステムを構築し、一元管理できる大型ディスプレイなどが供えられた司令本部の検討も必要ではないか。また、当該部署間だけではなく、校区避難所とも繋がった情報共有システムの構築と訓練が必要と思える。

1. 施策の概要

施策シート【03_01】

危機管理部

施策名称		防犯体制の整備			
総合計画体系 めざす姿（主観的満足度）	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち			
	施策目標等	3.暮らしに身近な安全が確保されたまち			
概要		防犯体制が整い、身近な安全が確保されている			
		警察や地域との連携を強化しながら、防犯体制の整備を進めるとともに、地域の防犯意識を高める。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
R7年度					
R8年度					
R9年度					

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度35.5%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、48.8%である。最も低いのは、40歳台で26.3%であった。
- ・枚方市を住みよいと感じている人の54.7%が防犯体制に満足している。
- ・昨年度と比較すると全体では、0.8ポイント減少したが若者世代（24歳以下）で15.8ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべて計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・「犯罪発生件数」は目標を達成している。「地域が設置管理するLED防犯灯の取替率」は、未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 防犯カメラの整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
防犯カメラ各賃貸借契約満了に伴う更新時の増設に向けた調整等の実施	既設の354台の更新の契約手続き（増設にかかる台数及び関係団体との調整）	危機管理政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
市内の通学路等を中心に設置する1,000台を超える街頭防犯カメラについて、適切に維持管理を実施していく。	既設354台の更新に加え、地域要望について市民全体の費用負担や公平性、有効性などの観点で選定し、枚方・交野両警察署とも協議の上14台の増設を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
犯罪発生件数	市内の刑法犯罪発生件数（1日当たり）	4.0	件	危機管理政策課	1. 防犯カメラの整備
各年度の実績		5.1	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 コロナ禍が明け人流が戻ったことにより、本市だけでなく大阪府下全域で発生件数が増加している。					

2. 防犯灯の整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
現行の防犯灯補助制度について、地域毎の配分の精査を随時実施、補助制度の見直し	各支部毎の予算配分の精査	危機管理政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・各支部毎の予算配分の精査。 ・令和8年4月からの新たな制度について、制度設計を進めるとともに、地域に周知を図る。	10年間の予算計画について、概ね3年毎に予算の見直しを行うこととしており、各支部の状況をモニタリングしたうえで配分予算の見直しを行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
地域が設置管理するLED防犯灯の取替率	地域が設置管理しているLED防犯灯において、計画どおり補助申請がなされる率。（全支部から申請のあった取替本数/年間配分予算）	100	%	危機管理政策課	2. 防犯灯の整備
各年度の実績		69.6	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 防犯灯の取替の進捗は地域差があることから、今後も予防的交換も含め計画的に取替を進めていただくよう周知する必要がある。					

3. 青色防犯パトロールの支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
校区コミュニティ協議会等が実施するパトロールに要する経費の補助	補助金のあり方について検討を行う	危機管理政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
現状のまま継続する。	R5年度に地域に対して実施したアンケート調査に基づき、補助金のあり方について検討を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

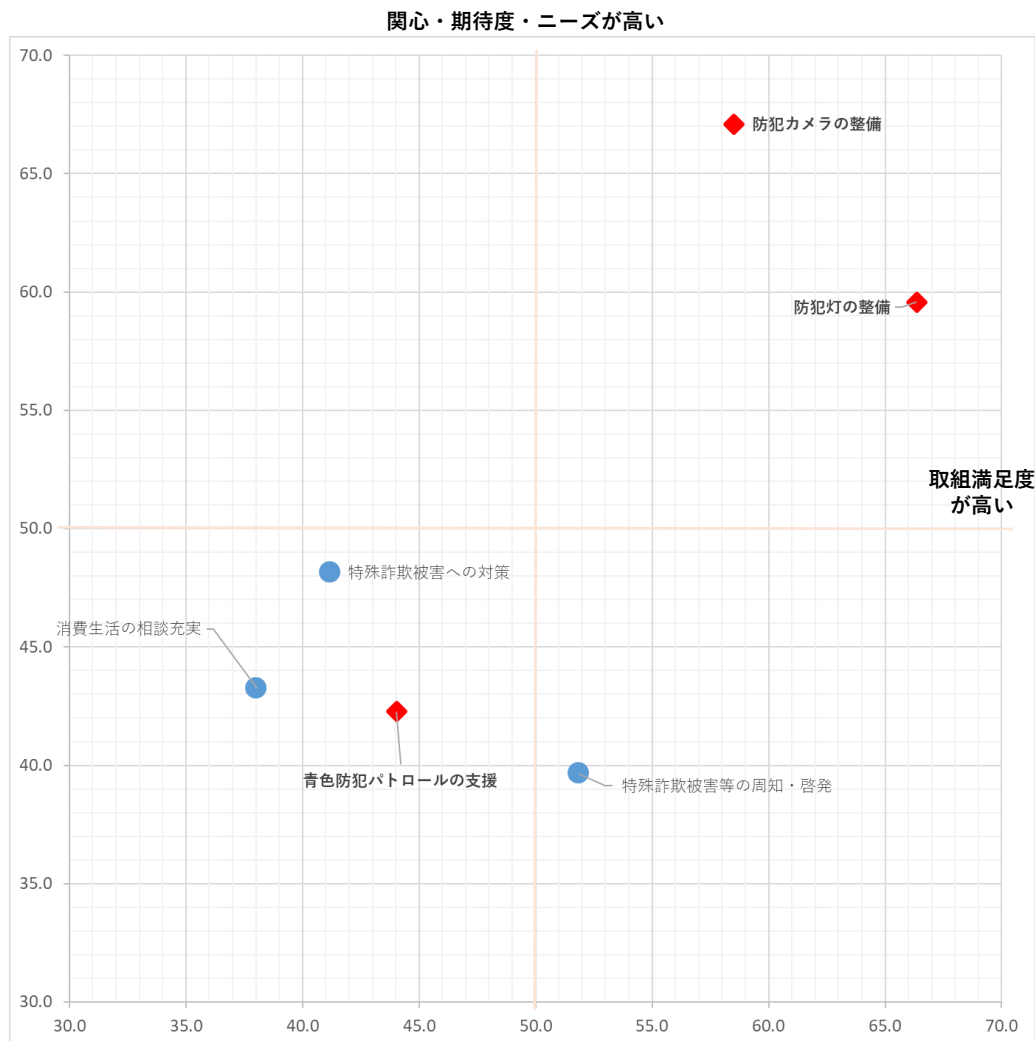
身近な安全が確保されている
03_01 防犯体制の整備

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
35.5%	16.9%	47.5%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
40.1%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『身近な安全が確保されている』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『03_01 防犯体制の整備』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤモンド◆

施策の分析

- ・「1. 防犯カメラの整備」、「2. 防犯灯の整備」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高いことから、犯罪発生件数増加に対する防犯意識の高まりが影響していると考えられる。
- ・「3. 青色防犯パトロールの支援」は関心・期待度・ニーズ、取組満足度ともに平均的である。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性として、警察や地域等と連携しながら本市の安全・安心のさらなる推進を図っていく。
- ・「2. 防犯灯の整備」については、防犯灯の取替の進捗に地域差があることが影響し目標未達成となっているため、予防的交換の必要性を地域へ周知することで、地域差を解消していく。

1. 施策の概要

施策シート【03_02】

危機管理部

施策名称		消費者被害へ意識啓発・相談体制の充実				
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち				
	施策目標等	3.暮らしに身近な安全が確保されたまち				
めざす姿（主観的満足度）		防犯体制が整い、身近な安全が確保されている				
概要		消費者被害の未然防止や被害の早期回復に向け、消費者の意識啓発や相談体制の充実を図る。				
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度		R8年度		
	R9年度		R10年度		R11年度	
	R12年度		R13年度		R14年度	
	R15年度		R16年度		R17年度	
	R18年度		R19年度		R20年度	

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度35.5%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、48.8%である。最も低いのは、40歳台で26.3%であった。
- ・枚方市を住みよいと感じている人の54.7%が防犯体制に満足している。
- ・昨年度と比較すると全体では、0.8ポイント減少したが若者世代（24歳以下）で15.8ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、全ての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・「枚方市内における年間特殊詐欺認知件数」、「悪質商法や特殊詐欺に関する啓発や情報提供の回数」は、目標を達成している。「消費者相談のうち解決した割合」は、未達成だが、目標には近づいている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 特殊詐欺被害への対策

取り組みの内容	R6年度	担当課
特殊詐欺に係る被害防止のための簡易型録音機による普及啓発拡大強化及び録音・着信拒否ができる特殊詐欺対策機器貸与事業の実施	・各種啓発活動の拡大強化 ・特殊詐欺対策機器貸与事業の実施	危機管理政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
R7年度に特殊詐欺対策機器を新たに400台購入し、警察や関係機関と連携しながら貸与事業を継続していく。	・簡易型録音機の防犯キャンペーン等での配布にあわせて啓発を行った。 ・府補助金を活用し、特殊詐欺対策機器を700台購入しうち約580台貸与を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
枚方市内における年間特殊詐欺認知件数	大阪府警が公表する年間特殊詐欺認知件数（1月～12月の確定値）	90	件	危機管理政策課	1. 特殊詐欺被害への対策
各年度の実績		94	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 大阪府下全体で昨年より認知件数が増加するなか、昨年より認知件数および府下でのファースト順位も改善している。					

2. 特殊詐欺被害等の周知・啓発

取り組みの内容	R6年度	担当課
特殊詐欺や悪質商法に関する啓発や情報提供について、R6に高齢者や学生等へ周知方法を強化し、警察や関係機関、地域と連携した啓発活動を展開	・被害情報の提供 ・各種啓発活動の拡大強化	危機管理政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
特殊詐欺や消費者被害に関してさらに広く情報提供する方法を調査し、現在の取り組みを引き続き実施する。	・特殊詐欺対策機器の貸与・配布事業にあわせて、関係機関と連携しながら啓発を行った。 ・若者に向けて闇バイトに関する注意喚起を行った。 ・月刊くらしの赤信号を毎月作成し、HPに掲載や市内学校へデータで提供した。また、印刷物を市施設や郵便局等へ配布した。 ・地域包括支援センターへ「消費者被害のお知らせ」を毎月情報提供した。 ・市内大学へ「消費者トラブルの注意喚起について」を掲示板システムに掲載依頼した。また、市内高校へ啓発冊子を配布した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
悪質商法や特殊詐欺に関する啓発や情報提供の回数	・月刊くらしの赤信号の発行 ・SOSネットワークを活用した情報提供 ・市内5大学の学生掲示板への掲示 ・特殊詐欺対策録音機等の配布にあわせて啓発及び情報提供	36	回	危機管理政策課	2. 特殊詐欺被害等の周知・啓発
各年度の実績		47	回	備考	
【施策指標の分析 R6】 月刊くらしの赤信号の発行、SOSネットワークを活用した情報提供、市内5大学の学生掲示板への掲示について計画通り実行した。次年度も消費者被害防止に役立つ情報を提供していく。					

3. 消費生活の相談充実

取り組みの内容	R6年度	担当課
消費生活相談の解決へ向けて助言または斡旋を行うとともに全国消費生活情報（PIO-NET）に相談情報を入力・調査・検索することにより本市消費生活相談を迅速・的確に処理	消費生活相談に対し助言や斡旋等を実施	危機管理政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
消費生活相談の内容が巧妙化・多様化しているため、研修の受講や情報収集に努め、トラブル解決に取り組む。	国民生活センターが開催する研修、大阪弁護士会や関西消費者協会が開催する事例研修へ参加するとともに、消費者庁や国民生活センターからの消費者トラブルに関する情報を収集し、相談者の問題解決に活かして助言・斡旋を行った。（消費者相談のうち解決した割合 98.1%）	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
消費者相談のうち解決した割合	消費者相談解決済件数（あっせん不調・処理不能を除く）／消費者相談件数（年度内処理済件数）	98.5	%	危機管理政策課	3. 消費生活の相談充実
各年度の実績		98.1	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 消費者トラブルは巧妙化しており、「特殊詐欺」「SNS詐欺」「悪徳商法」の増加などにより、多様な形態で発生することを見据え、国民生活センターをはじめ大阪弁護士会、関西消費者協会の各種専門研修の受講と情報共有、また、全国消費生活情報ネットワークシステム（PIO-NET）の情報収集と合わせて、解決の割合が増加するよう対応していく。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

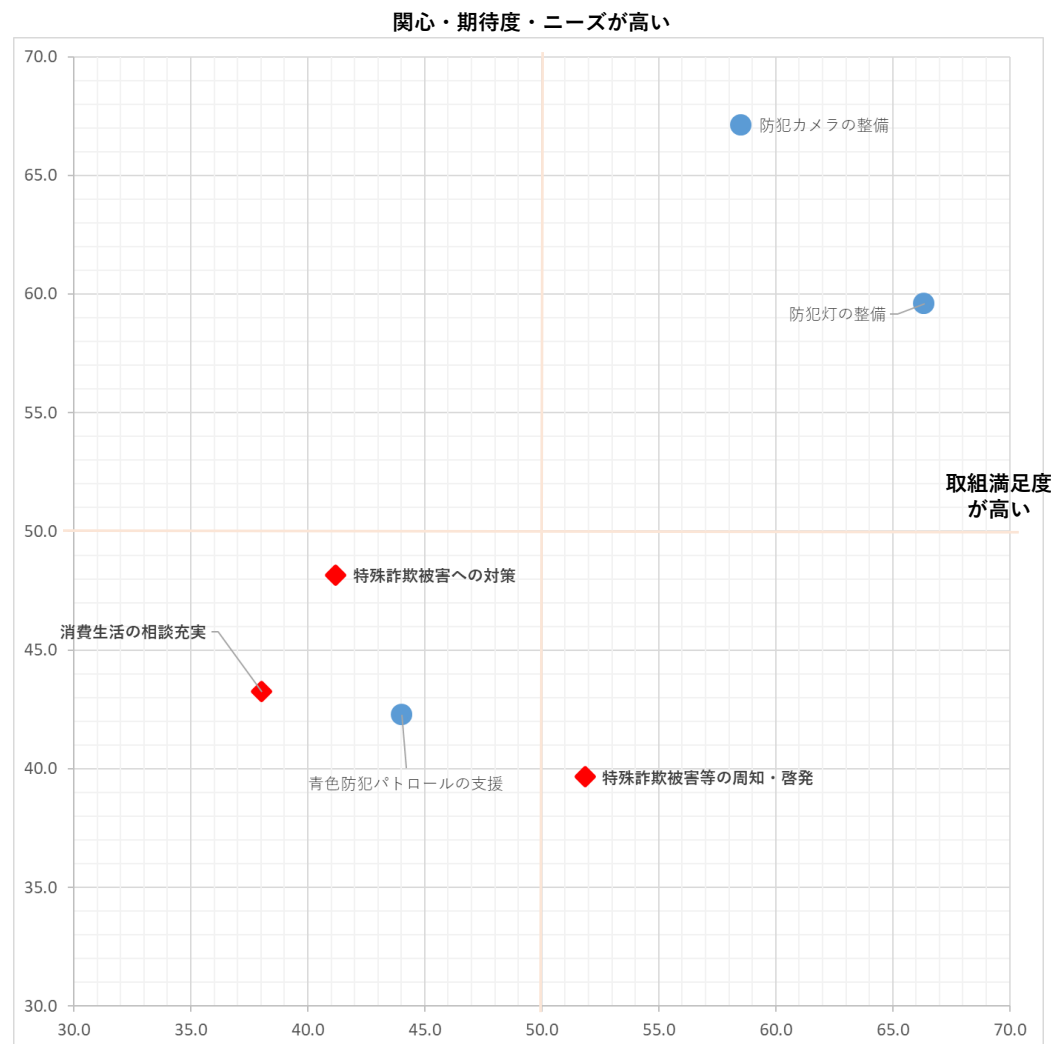
身近な安全が確保されている
03_02 消費者被害へ意識啓発・
相談体制の充実

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
35.5%	16.9%	47.5%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
40.1%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『身近な安全が確保されている』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『03_02 消費者被害へ意識啓発・相談体制の充実』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 特殊詐欺被害への対策」、「2. 特殊詐欺被害等の周知・啓発」は、関心・期待度・ニーズ、取組満足度ともに平均的である。
- ・「3. 消費生活の相談充実」の関心・期待度・ニーズは平均的であるものの、取組満足度は低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

・施策全体の方向性として、特殊詐欺や消費者被害に関して、さらに広く情報提供する方法を調査するとともに、相談体制や関連団体との情報共有化を強化することでトラブルの解決に取り組んでいく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

・おおむね目標値、あるいは目標値を上回る実績が得られており、当該施策を継続・発展させることで、市民への意識の広がりや満足度のさらなる向上を期待する。

・全体的に関心・期待度・ニーズが低い傾向にあるが、市民の安心・安全を守るために、引き続き取り組みを推進していただきたい。

・特殊詐欺等は社会的な問題となってるに関わらず、マトリクス分析による対策および周知・啓発の関心・期待度は平均を下回っており、市民の関心を高める取り組みの強化が求められる。

・消費者相談のうち解決した割合が98%を超える高い水準になっている。泣き寝入りしているような、潜在的な案件がもしあればそれを解決につなげるため、このような解決割合の数値も市民に向けて継続して発信することで「まずは相談してみよう」と思う市民が増えるのではないかと。

・施策は機能しているように見えるがネットによる被害など、むしろ問題は増え続けているところもある。実質的に消費者被害をなくす方向に進んでいるのか確認のうえ、潜在的な問題を取り残していないか検討する必要がある。

・高齢者のための見守りネットのような取り組みの活性化が有効と思われる。介護や福祉のネットワークとの連携なども強化されるとよい。

1. 施策の概要

施策シート【04-01】

土木部

施策名称		幹線道路の整備			
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち			
	施策目標等	4.安全で快適な交通環境が整うまち			
めざす姿（主観的満足度）		安全で快適な道路環境が整っている			
概要		交通渋滞の緩和や安全な交通環境を確保するため、市内の幹線道路の整備を進めます。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	1. 主要道路のリフレッシュ整備				
	2. 都市計画道路の整備				
	(1) 長尾杉線整備				
	(2) 御殿山小倉線整備				
R7年度	(3) 牧野長尾線整備				
	(4) 中振交野線整備				
	3. 春日大峯線道路拡幅				
	4. 枚方藤阪線整備				
	5. 道路改良				
R8年度	2. 都市計画道路の整備				
	(1) 長尾杉線整備				
	○長尾杉線長尾工区供用開始				
	(3) 牧野長尾線整備				
	○牧野長尾線大池区間の供用開始				
R9年度					

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度36.2%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、53.7%である。最も低いのは、40歳台で31.4%であった。
- ・枚方市を住みよいと感じている人の55%が道路環境に満足しており、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、2.7ポイント上昇し、特に若者世代（24歳以下）で15.8ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、「2（3）．都市計画道路の整備（牧野長尾線整備）」の住宅区間の整備、「4．枚方藤阪線整備」の道路用地取得に向けた協議などで進捗に課題があるものの、施策としては7割以上の取り組みで計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・「修繕が必要な延長に対し実施した延長の修繕率」、「各年度における歩道の設置延長距離」、「改良件数」については、目標を達成している。「市事業における都市計画道路の整備率」、「国道1号における旅行速度」は、未達成だが、目標には近づいている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 主要道路のリフレッシュ整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
主要幹線道路に対して、地盤等の調査結果を基に、現在の利用状況にあった舗装構成に改築及び更新（リフレッシュ整備）	長尾船橋線、中宮津田線、楠葉中宮線、杉尊延寺線の計画予定延長を実施できるように、交付金を積極的に活用し、整備を実施	道路河川整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
リフレッシュ整備路線の未整備区間については、交付金（加速化対策）の活用を積極的に行い、整備を進める	長尾船橋線、中宮津田線、楠葉中宮線、杉尊延寺線の整備及び山之上高田線、新番里中央線の設計	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
修繕が必要な延長に対し実施した延長の修繕率（主要道路に対して、現在の利用状況にあった舗装構成に改築及び更新）	各年度における修繕済延長距離／各年度における修繕予定延長距離	100	%	道路河川整備課	1. 主要道路のリフレッシュ整備
各年度の実績		100	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度は各路線とも予定通り整備できている。令和7年度以降も引き続き交付金を積極的に活用し整備を進める。					

2 (1) . 都市計画道路の整備 (長尾杉線整備)

取り組みの内容	R6年度	担当課
国道307号から牧野長尾線までの道路整備	長尾工区の道路整備	土木政策課、道路河川整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
令和7年度末の供用開始に向けて整備を進める	長尾工区の道路整備	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
各年度における歩道の設置延長距離	各年度における市道の歩道設置延長距離	270	m	道路河川整備課	2 (1) ~2 (4) . 都市計画道路の整備
各年度の実績		1,020	m	備考	
【施策指標の分析 R6】 御殿山小倉線・中振交野線の供用開始が令和6年度に繰越されたことにより整備延長が伸びている見かけとなっている。令和7年度以降は計画通り整備を進める。					

2 (2) . 都市計画道路の整備 (御殿山小倉線整備)

取り組みの内容	R6年度	担当課
渚星ヶ丘線から渚中宮線まで (3工区)の道路整備	予備設計・用地測量	土木政策課、道路河川整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
事業認可に向けて関係機関の協議を進めると同時に詳細設計、用地先行買収に向けた準備を進める	予備設計・用地測量	
年度ごとの達成状況	○	

2 (3) . 都市計画道路の整備 (牧野長尾線整備)

取り組みの内容	R6年度	担当課
長尾大池北端から府道枚方高槻線までの道路整備	大池区間、住宅区間の道路整備	土木政策課、道路河川整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
大池区間の令和7年度末の供用開始に向けて整備を進める。住宅区間については、橋梁区間の線形確定し用地買収に向けた準備ができた。今後、用地買収の動向に合わせ詳細設計の着手を図る。	大池区間の道路整備 住宅区間の設計見直し	
年度ごとの達成状況	○	

2 (4) . 都市計画道路の整備 (中振交野線整備)

取り組みの内容	R6年度	担当課
府道八尾枚方線から市道南中振21号線及び市管理道路までの都市計画道路整備	土地収用法に基づく手続き	土木政策課、道路河川整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
土地収用法に基づく手続きを行い、権利取得裁決及び物件明渡裁決を収用委員会に諮り、結果に合わせ今後の方向性を検討する。	土地収用法に基づく申請の手続き	
年度ごとの達成状況	○	

3. 春日大塚線道路拡幅

取り組みの内容	R6年度	担当課
市道春日大塚線の拡幅整備	整備手法の検討	道路河川整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
地域の意向や財政状況等を勘案し、整備手法を検討する。	整備手法の検討	
年度ごとの達成状況	△	

※関連指標なし

4. 枚方藤阪線整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
枚方市駅から府道杉田口禁野線までの都市計画道路整備	用地取得の協議継続	道路河川整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
道路用地取得に向け協議の継続を進めるとともに、道路用地取得後に道路整備工事を進めていく。	用地取得に向け協議継続	
年度ごとの達成状況	△	

※関連指標なし

5. 道路改良

取り組みの内容	R6年度	担当課
大規模な災害発生後、道路施設の適正な維持管理を図るため、以下の内容について実施。 ・法定外公共物（里道）の改良 ・市道の維持補修工事に該当しない道路の改良	大規模な災害発生後の法定外公共物（里道）等の改良	道路河川整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
大規模な災害が発生した場合、道路施設の適正な維持管理を図るため、今後改良を実施していく。	改良する事象が発生しなかった	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
改良件数	各年度の対応件数	0	件	道路河川整備課	5. 道路改良
各年度の実績		0	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 改良する事象が発生しなかったため				・法定外公共物（里道）及び市道の維持補修工事に該当しない道路改良工事については、当課において計画的に対応することがないため。 ・道路構造物（橋梁等）の補強工事については、施策シート01_03の橋梁長寿命化計画における修繕率で管理しているため。 ◎今回、上記内容を踏まえ、現状に見合った内容【大規模な災害発生後に損傷した道路施設の改良】で今後管理していく方が望ましいと考え見直しを行った。	

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
市事業における都市計画道路の整備率	市事業における都市計画道路の整備延長距離／計画延長距離	50	%	道路河川整備課	—
各年度の実績		46.6	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 各路線とも順調に進んでおり令和7年度まで予定どおり整備率が伸びるものと思われるが、令和8年度以降については用地取得状況により停滞する可能性がある。					

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
国道1号における旅行速度	枚方市内の国道1号の主要渋滞箇所における平均旅行速度（主要渋滞箇所5か所の旅行速度の平均値）	17.7以上 （令和3年から過去10年間の旅行速度の平均値）	km/h	土木政策課	—
各年度の実績		17.6	km/h	備考	
【施策指標の分析 R6】 R6年度に市事業の都市計画道路が供用しているが、一部区間のみでは過去からの平均値と大きく変化がなかった。（R5実績値）					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

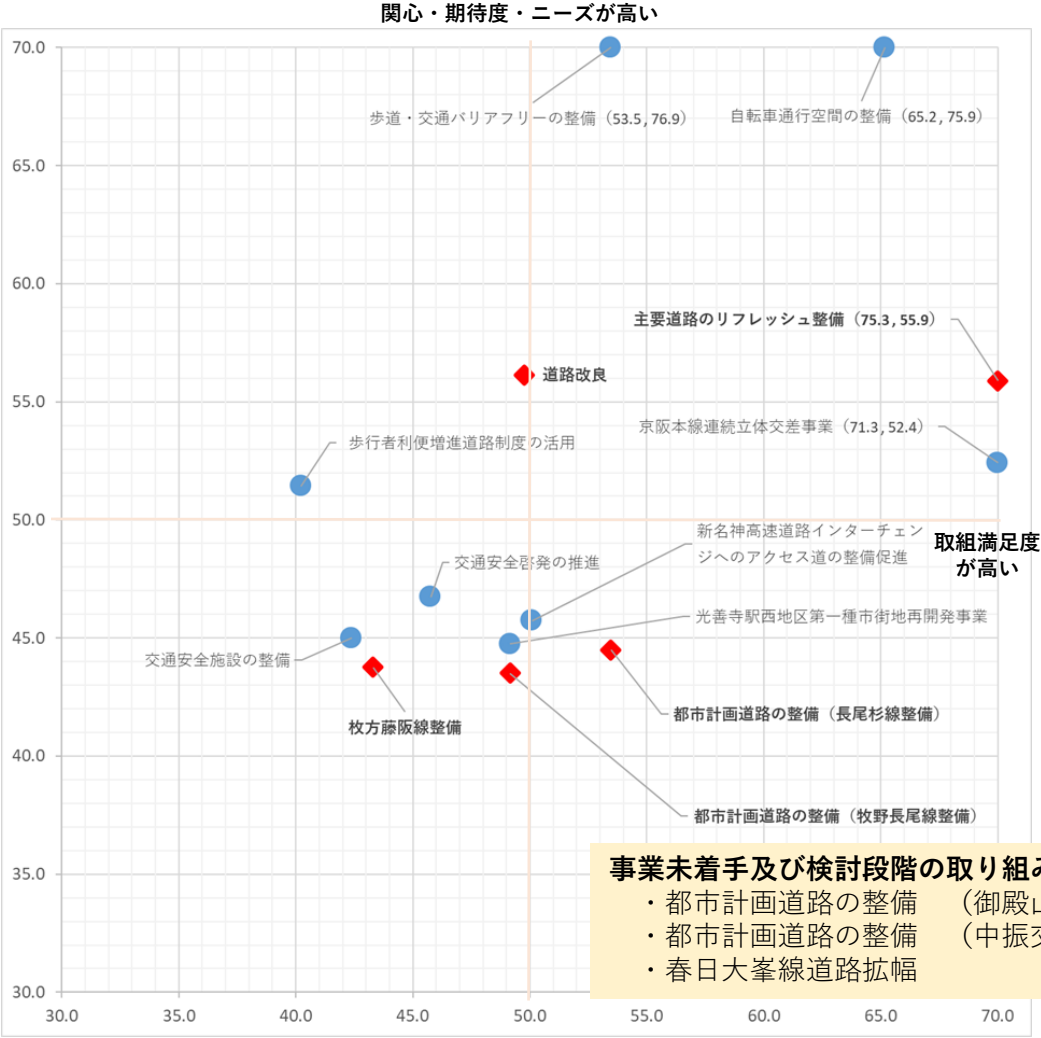
安全で快適な道路環境が整っている
04_01 幹線道路の整備

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
36.2%	25.9%	37.9%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
28.9%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿（施策満足度）『安全で快適な道路環境が整っている』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『04_01 幹線道路の整備』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 主要道路のリフレッシュ整備」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- ・「5. 道路改良」の関心・期待度・ニーズは高いものの、取組満足度は平均的である。
- ・「2（1）. 都市計画道路の整備（長尾杉線整備）」、「2（3）. 都市計画道路の整備（牧野長尾線整備）」は、関心・期待度・ニーズは低いものの、取組満足度は平均的である。
- ・「4. 枚方藤阪線整備」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

・施策全体の方向性として、道路は市民生活を支える重要な都市基盤施設であり、住みよさにつながる指標になり得ることから、日頃からの快適な道路環境の整備と大規模な災害が発生した場合にも道路が機能するよう、引き続き、計画に基づいた幹線道路等の整備や道路施設の適正な維持管理に向けた改良を実施していく。

1. 施策の概要

施策シート[04_02]

都市整備部

施策名称	京阪連続立体交差事業の推進			
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち		
	施策目標等	4.安全で快適な交通環境が整うまち		
めざす姿（主観的満足度）	安全で快適な道路環境が整っている			
概要	交通渋滞の緩和や安全な交通環境を確保するため、京阪本線連続立体交差事業を進める。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	1. 京阪本線連続立体交差事業 2. 光善寺駅西地区第一種市街地再開発事業			2. 光善寺駅西地区第一種市街地再開発事業 ○ 2街区施設建築物工事の完了

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度36.2%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、53.7%である。最も低いのは、40歳台で31.4%であった。
- ・枚方市を住みよいと感じている人の55%が道路環境に満足しており、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、2.7ポイント上昇し、特に若者世代（24歳以下）で15.8ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・指標については、すべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 京阪本線連続立体交差事業

取り組みの内容	R6年度	担当課
鉄道を高架化し、市内15か所の踏切除却をすることで、交通渋滞の解消と事故の防止等、都市交通を円滑化し、平面鉄道で分断されているまちの一体化、新たに創出される高架下の有効活用などを目的に京阪本線連続立体交差事業を推進。	・用地取得 ・文化財調査 ・道路設計、工事 ・支障物件移設等調整	連続立体交差課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
R4年度より鉄道高架化工事に着手し、引き続き支障物の移設等の調整を行っていく。用地取得の残案件についても用地取得（収用裁決申請手続き）により完了に向けて鋭意取り組む。	用地取得はほぼ完了し、支障物移設調整および包蔵地の文化財調査を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
連続立体交差事業用地取得率	連続立体交差事業に必要な事業用地の取得率（取得面積／総取得面積）	99	%	連続立体交差課	1. 京阪本線連続立体交差事業
各年度の実績		99	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 R6年度末時点で残案件が1となり、R7年度中に用地取得率100%を目標としている。					

2. 光善寺駅西地区第一種市街地再開発事業

取り組みの内容	R6年度	担当課
都市機能の集積と交通結節点機能の強化を一体的に図り、立地適正化計画に基づくコンパクト・プラス・ネットワークの形成による駅部を中心とした良好な市街地環境と地域の活性化を促進。	・2街区の建築敷地の文化財調査および建築工事の着手 ・一部の都市計画道路の整備着手	市街地開発課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・事業完了に向け引き続き技術的・財政的支援を継続する。 ・国庫補助の配当について、国土交通省より厳しい状況が続くとの話が出ているため、引き続き国や府と協議を行い交付金の確保に努める。 ・京阪本線連続立体交差事業との事業進捗等の情報共有及び調整	・2街区の建築敷地の文化財調査(令和6年6月完了) ・2街区建築工事（令和6年7月着手） ・都市計画道路の一部の舗装整備と歩行者等への解放の実施（令和6年7月～）	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
事業進捗率	事業進捗率＝当該年度までの事業費の累計／総事業費	48.00	%	市街地開発課	2. 光善寺駅西地区第一種市街地再開発事業
各年度の実績		48	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 都市計画道路等の設計の着手及び2街区建築工事等を当初の想定通り進捗させることができたため、目標値を達成できた。次年度以降についても、再開発組合と事業の進捗等について協議しながら、目標達成に向けて取り組んでいく。					
耐火建築物の整備率（不燃化率）	不燃化率＝（耐火建築物の建築面積＋準耐火建築物の建築面積×0.8）／（全建物の建築面積）	58.91	%	市街地開発課	2. 光善寺駅西地区第一種市街地再開発事業
各年度の実績		58.91	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年7月より着手している2街区建築工事について、当初の想定通り工事が進捗したことで目標値が達成できた。次年度以降についても、再開発組合と工事の進捗等について協議しながら、目標達成に向けて取り組んでいく。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

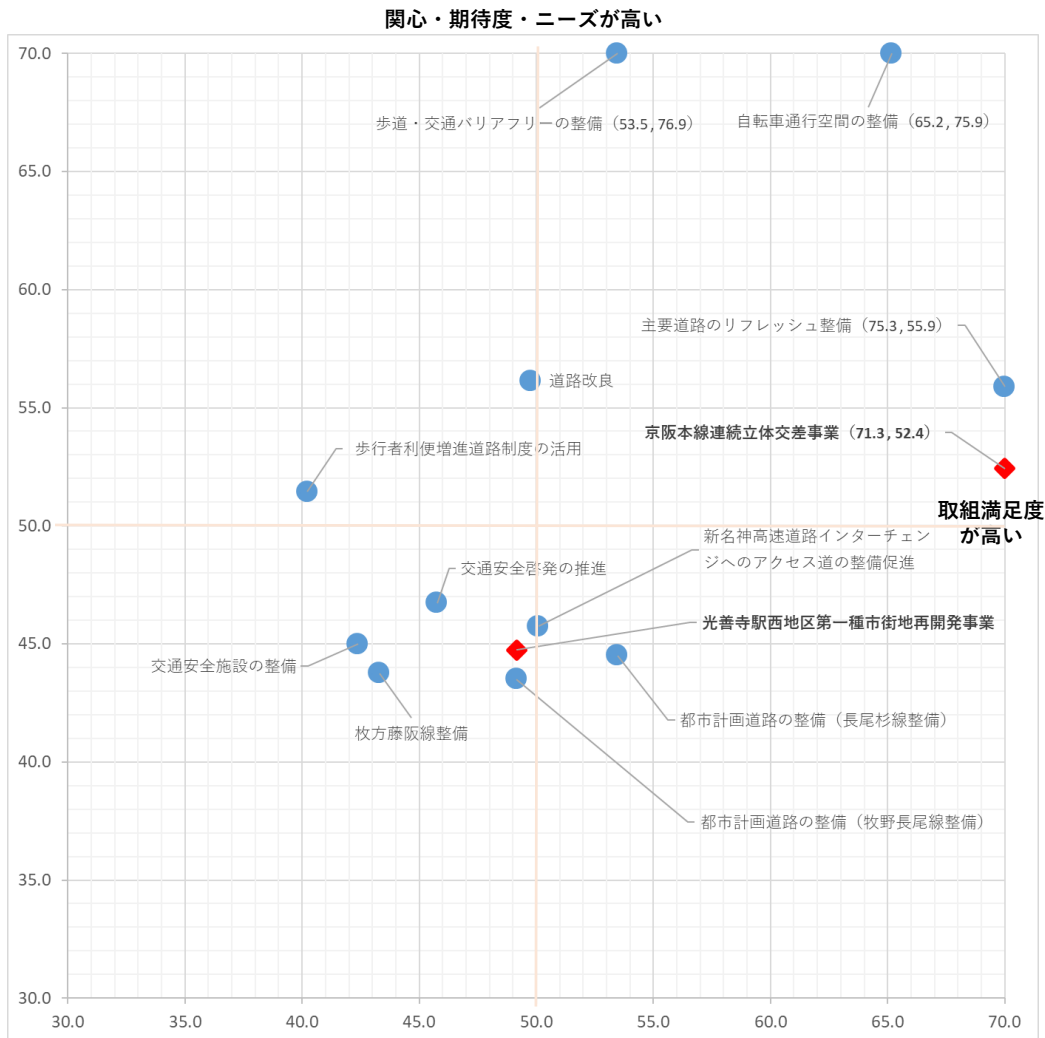
安全で快適な道路環境が整っている
04_02 京阪連続立体交差事業の推進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
36.2%	25.9%	37.9%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
28.9%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足
度)『安全で
快適な道路環
境が整ってい
る』に紐づく
全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施策シート『04_02 京阪連続立体交差事業の推進』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 京阪本線連続立体交差事業」の取組満足度は高いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。
- ・「2. 光善寺駅西地区第一種市街地再開発事業」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性として、住みよさの向上のため、事業完了に向けて引き続き関係機関と連携のうえ取り組みを進めていく。

1. 施策の概要

施策シート【04_03】

土木部

施策名称		広域的な幹線道路等の整備						
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち						
	施策目標等	4.安全で快適な交通環境が整うまち						
めざす姿（主観的満足度）		安全で快適な道路環境が整っている						
概要		交通渋滞の緩和や都市間交流の活性化、防災面での広域連携を図るため、広域的な幹線道路等の整備に向けて取り組む。						
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度		R8年度		R9年度		
	1. 新名神高速道路インターチェンジへのアクセス道の整備促進 2. 渡河橋（牧野高槻線）の新設と京都守口線の4車線化						1. 新名神高速道路インターチェンジへのアクセス道の整備促進 ○内里高野道線残区間開通	

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度36.2%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、53.7%である。最も低いのは、40歳台で31.4%であった。
- ・枚方市を住みよいと感じている人の55%が道路環境に満足しており、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、2.7ポイント上昇し、特に若者世代（24歳以下）で15.8ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・「国道1号における旅行速度」については、未達成だが、目標には近づいている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 新名神高速道路インターチェンジへのアクセス道の整備促進

取り組みの内容	R6年度	担当課
新名神高速道路八幡京田辺IC・JCTへのアクセス道となる内里高野道線・長尾家貝町線の開通に向けて北山通線等を整備。	・北山通線の道路線形振り替え工事に伴う、新設道路整備及び現道の改修 ・現道の活用整備	土木政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
新名神高速道路八幡京田辺IC・JCTへのアクセス道となる内里高野道線の残区間は、新名神高速道路の供用に併せて整備するため、新名神高速事業の事業進捗を注視する。	・北山通線の新設道路整備及び現道の改修が完了	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

2. 渡河橋（牧野高槻線）の新設と京都守口線の4車線化

取り組みの内容	R6年度	担当課
大阪府と連携して令和11年度の完成を目指して、渡河橋（牧野高槻線）の新設と京都守口線の4車線化に取り組む。	・物件調査 ・用地取得 ※工事 (※府事業)	土木政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
大阪府との覚書や用地の取得に関する協定書に基づき、本市が用地取得事務に取り組む	・事業対象地について、物件調査等を行い、用地取得を実施	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
国道1号における旅行速度（再掲）	枚方市内の国道1号の主要渋滞箇所における平均旅行速度（主要渋滞箇所5か所の旅行速度の平均値）	17.7以上 (令和3年から過去10年間の旅行速度の平均値)	km/h	土木政策課	-
各年度の実績		17.6	km/h	備考	
【施策指標の分析 R6】 R6年度に市事業の都市計画道路が供用しているが、一部区間のみでは過去からの平均値と大きく変化がなかった。（R5実績値）					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

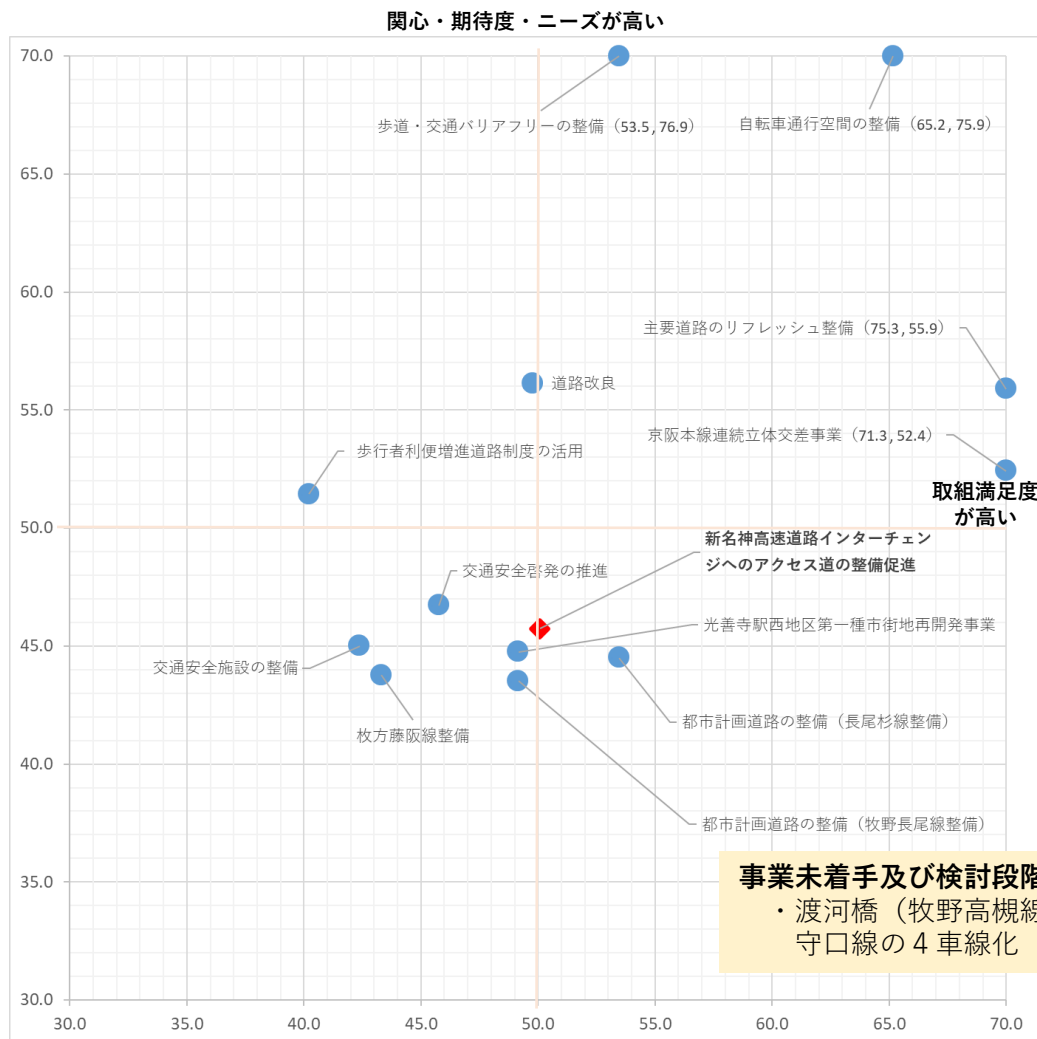
安全で快適な道路環境が整っている
04_03 広域的な幹線道路等の整備

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
36.2%	25.9%	37.9%
「決め手となった取り組みはない」と回答した人		
28.9%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
（施策満足度）『安全で快適な道路環境が整っている』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『04_03 広域的な幹線道路等の整備』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

事業未着手及び検討段階の取り組み
・ 渡河橋（牧野高槻線）の新設と京都守口線の4車線化

施策の分析

・「1. 新名神高速道路インターチェンジへのアクセス道の整備促進」は、令和6年度に事業を完了していることから、関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに平均的である。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、引き続き、大阪府と連携の上、道路整備を推進していく。

1. 施策の概要

施策シート【04_04】

土木部

施策名称	快適な歩行空間の整備			
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち		
	施策目標等	4.安全で快適な交通環境が整うまち		
めざす姿（主観的満足度）		安全で快適な道路環境が整っている		
概要		日常生活において安全に歩行できるよう、快適な歩行空間の整備に取り組む。		
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	1. 歩道・交通バリアフリーの整備 2. 自転車通行空間の整備 3. 子どもの交通安全プログラムに基づく道路整備 4. 中宮区第33・34号線他歩道フット化整備 5. 歩行者利便増進道路制度の活用			

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度36.2%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、53.7%である。最も低いのは、40歳台で31.4%であった。
- ・枚方市を住みよいと感じている人の55%が道路環境に満足しており、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、2.7ポイント上昇し、特に若者世代（24歳以下）で15.8ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「各年度における歩行空間の整備延長距離」、「維持管理費用の確保」は目標を達成している。「各年度におけるバリアフリー整備延長距離」については未達成だが、目標に近づいている。「各年度における自転車通行空間の整備延長距離」については、未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 歩道・交通バリアフリーの整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
歩道拡幅整備及び交通バリアフリー整備に伴う設計及び工事の実施	・中振新香里線 【継続】歩道拡幅設計 ・牧野北町第2号線 バリアフリー工事 ・高田11号線 歩道拡幅用地測量・設計	道路河川整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
計画的に歩道拡幅整備及び交通バリアフリー整備に伴う設計及び工事を実施する。	・中振新香里線 歩道拡幅設計 ・牧野北町第2号線 バリアフリー工事 ・高田11号線 歩道拡幅用地測量・設計	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
各年度における歩行空間の整備延長距離	各年度における歩行空間整備延長距離	0	m	道路河川整備課	1. 歩道・交通バリアフリーの整備
各年度の実績		0	m	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の設計委託が関係機関及び地権者との協議により繰越となり、今後用地取得の進捗状況によって、令和7年度以降の整備進捗率が停滞する可能性がある。					
各年度におけるバリアフリー整備延長距離	各年度におけるバリアフリー整備予定延長距離	390	m	道路河川整備課	1. 歩道・交通バリアフリーの整備
各年度の実績		377	m	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度に実施した設計委託を令和7年度に工事を実施する予定としていたが、関係課との調整により令和8年度以降となったため、令和7年度以降の整備進捗率が停滞する可能性がある。令和6年度は、1路線のバリアフリー整備工事を実施した。					

2. 自転車通行空間の整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
牧野長尾線、長尾杉線、御殿山小倉線、中振交野線及び市道の自転車通行空間の整備を実施	【既存路線】 ・北片鉾小倉東線 他 ・自転車設計（牧野本町第1号線他）	道路河川整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
財政状況等を勘案し、他事業との調整や連携を図りながら計画的に自転車通行空間整備事業を進めていく。	・北片鉾小倉東線 他 整備工事 ・牧野本町第1号線他 実施設計	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
各年度における自転車通行空間の整備延長距離	各年度における自転車通行空間整備延長距離	500	m	道路河川整備課	2. 自転車通行空間の整備
各年度の実績		316	m	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度に実施した設計委託で関係機関との協議により、整備可能延長が減少したため、令和7年度の整備進捗率が停滞する可能性がある。 令和6年度は、1路線の自転車通行空間整備工事を実施した。					

3. 子どもの交通安全プログラムに基づく道路整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
子どもの安全確保に資するため通学路に加え未就学児の移動経路を含めた安全確保を図ることを目的に策定された枚方市子どもの交通安全プログラムに基づき、必要な整備を進める。	下記2路線における用地取得協議の継続、地権者の動向注視 ・尊延寺穂谷線の拡幅 ・市道王仁公園前線の歩道拡幅	道路河川整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
道路用地取得に向け協議の継続を進めるとともに、道路用地取得後に道路整備工事を進めていく。	用地取得に向け協議継続	
年度ごとの達成状況	△	

※関連指標なし

4. 中宮区第33・34号線他歩道フラット化整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
子どもの安全確保に資するため通学路に加え未就学児の移動経路を含めた安全確保を図ることを目的に策定された枚方市子どもの交通安全プログラムに基づき、中宮区第33・34号線の歩行空間を確保する等の道路空間再配分事業を実施。	・他事業との調整や連携を図る ・事業の着手時期を検討	道路河川整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
他事業との調整や連携を図るとともに財政状況等を勘案し、事業の着手時期を検討していく。	他事業との調整や連携及び、事業着手時期の検討	
年度ごとの達成状況	△	

※関連指標なし

5. 歩行者利便増進道路制度の活用

取り組みの内容	R6年度	担当課
樟葉駅前広場において、賑わいとゆとりある空間の形成に向け、道路法の規制緩和手法である歩行者利便増進道路制度、いわゆる「ほこみち制度」を活用し、民間の創意工夫による樟葉駅周辺の持続可能な賑わい創出と維持管理費用の確保を図る。	・制度活用に向けた実証実験 ・利便増進誘導区域の指定及び公募占用指針を策定 ・「枚方市歩行者利便増進道路占用予定者選定委員会」におけるほこみち占用者の選定	土木政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
「ほこみち制度」を活用した占用料やネーミングライツ料等を財源として樟葉駅前広場の維持管理を行うとともに樟葉駅周辺の持続可能な賑わい創出に向けて占用者と連携を行う。	制度活用に向けた実証実験及び利便増進誘導区域の指定、公募占用指針の策定を経て、「枚方市歩行者利便増進道路占用予定者選定委員会」でほこみち占用者を選定した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
維持管理費用の確保	ネーミングライツ料、ほこみち占用料及、デジタルサイネージ広告収入の一部による維持管理費用の確保	5,400	千円	土木政策課	5. 歩行者利便増進道路制度の活用
各年度の実績		5,400	千円	備考	
【施策指標の分析 R6】 ネーミングライツ料、ほこみち占用料及びデジタルサイネージ広告収入の一部による維持管理費用を確保					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

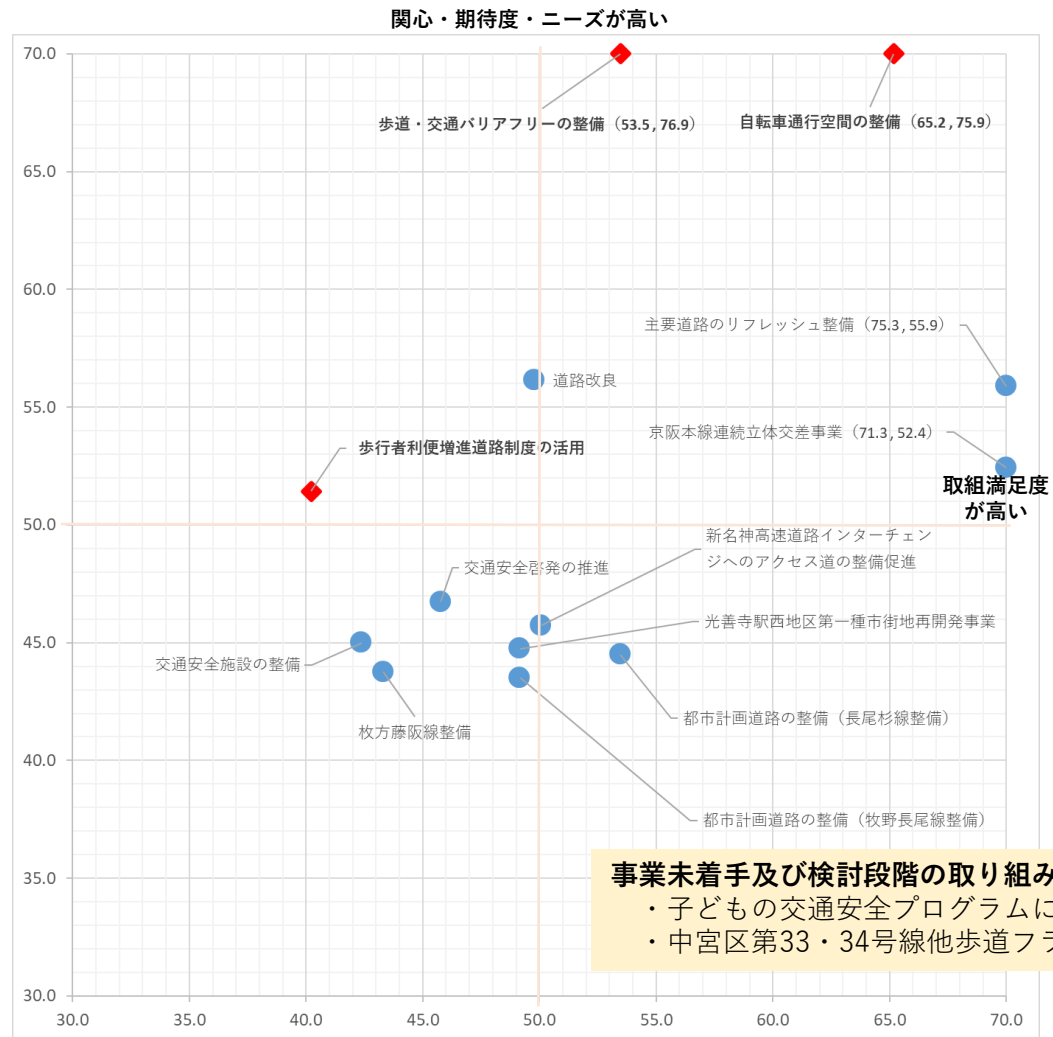
安全で快適な道路環境が整っている
04_04 快適な歩行空間の整備

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
36.2%	25.9%	37.9%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
28.9%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
（施策満足度）『安全で
快適な道路環境が整っている』に紐づく
全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施策シート
『04_04 快適な歩行空間の整備』に紐づく取り組み
⇒ 赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「2. 自転車通行空間の整備」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高く、令和8年4月から施行される自転車の交通反則通告制度の影響が考えられる。
- ・「1. 歩道・交通バリアフリーの整備」の取組満足度は平均的であるものの、関心・期待度・ニーズは高い。
- ・「5. 歩行者利便増進道路制度の活用」の関心・期待度・ニーズは平均的であるものの、取組満足度は低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、関係機関と連携の上、歩行者や自転車が安全に通行できるよう道路の整備を推進していく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

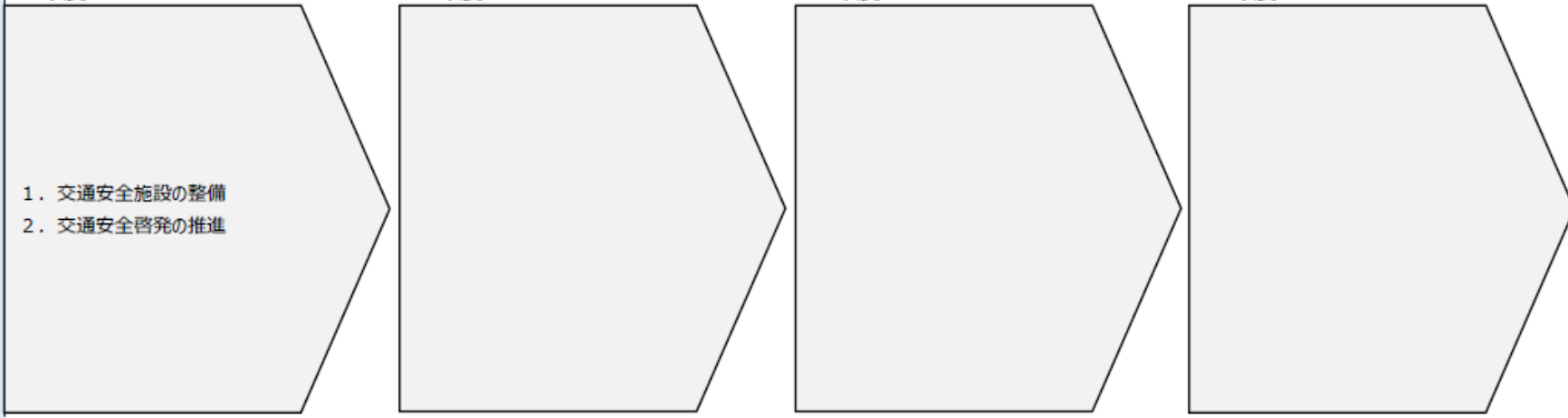
施策評価員による評価

- ・おおむね目標値、あるいは目標値を上回る実績が得られており、市民満足度も徐々に上がっていることから、当該施策を継続して進めていけばよい。
- ・歩行者利便増進道路制度の活用について、市民の取組満足度が低いため、事業着手を進めていただきたい。「3. 子どもの交通安全プログラムに基づく道路整備」、「4. 中宮区第33・34号線他歩道フラット化整備」についての具体的な取り組み内容が、令和7年度以降も、令和6年度と同様の内容となっている。各年度ごとに取り組み内容を記載し、事業完了に向けたスケジュールを示すべきではないか。
- ・施策の方向は妥当だが、取組の説明やPRが不十分のように思えるため、整備を進めている地区の周辺住民の評価などを探ってみる方法はどうか。また、市民の関心をさらに正確な理解に導くため、子どもたちを含めて歩行者や自転車の安全に対して、総合的に配慮した整備が進んでいることをアピールする必要がある。
- ・児童・生徒の通学中や保育所の園児と保育士の散歩中のところに自動車飛び込んでくるような痛ましい事故も全国で後を絶たないことから、当該施策の取り組み終了までに時間を要するのであれば、市内で事故が起こりやすい箇所を洗い出し、小中学校や幼稚園・保育所をはじめ、該当地域の家庭などへの注意喚起や、道路への掲示物などによる運転手への注意喚起など、できることから継続して行う必要があるのではないか。
- ・施策が快適な歩行空間と銘打つのならば、アルコーブがあったり余裕のある歩道には、市で取り組んでいる椅子を自宅や事業所、店舗の前に椅子を置き、誰でも座れる休憩場所を作る「枚方椅子プロジェクト」とコラボして、高齢者のための快適空間（外出への誘因にもなる）をしつらえても良いのではないか。環境行動デザインの観点からも、満足度は向上し、福祉との連携により、環境の質は多義的に向上すると思われる。

1. 施策の概要

施策シート[04_05]

土木部

施策名称		交通安全意識の向上			
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち			
	施策目標等	4.安全で快適な交通環境が整うまち			
めざす姿（主観的満足度）		安全で快適な道路環境が整っている			
概要		交通事故の防止を図るため、自転車や歩行者の交通意識の向上を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度			R8年度
					
	1. 交通安全施設の整備				
	2. 交通安全啓発の推進				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度36.2%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、53.7%である。最も低いのは、40歳台で31.4%であった。
- ・枚方市を住みよいと感じている人の55%が道路環境に満足しており、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、2.7ポイント上昇し、特に若者世代（24歳以下）で15.8ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・指標については、すべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 交通安全施設の整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
地域要望などに基づく、交通安全施設の整備	カーブミラー、ガードレール等の交通安全施設の整備	交通対策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
予算に交通対策特別交付金を充当しているが、年々減額しているため年度内に要望に対応しきれないことがある。子どもの交通安全プログラムなどは年度内の対応が望ましいため、教育委員会とともに財源確保に向けた取組が必要。	カーブミラー・横断防止柵の新設、区画線の塗り直しなど、交通安全施設の整備を実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
交通事故件数（車両）	市内で発生した車両が関わる交通事故件数	1,150	件	交通対策課	1. 交通安全施設の整備
各年度の実績		1,072	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 ・コロナ禍が落ち着き、地道な交通安全啓発の実施により、交通事故が減少したと考えられる。					

2. 交通安全啓発の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
交通安全啓発の推進	交通安全運動、交通安全教室（歩行・自転車）等の実施	交通対策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
交通事故の減少を目指し、今後も、地道な交通安全啓発を実施する。	春と秋の全国交通安全運動（啓発パレード、自転車・バイクの点検等）、交通安全教室（歩行・自転車（市内44小学校））、保育園（所）、幼稚園への交通安全啓発DVD等の貸し出し（35園）を実施	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
交通事故件数（歩行者・自転車）	市内で発生した自転車や歩行者が関わる交通事故件数	430	件	交通対策課	2. 交通安全啓発の推進
各年度の実績		409	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 ・コロナ禍が落ち着き、地道な交通安全啓発の実施により、交通事故が減少したと考えられる。					
交通安全に関する啓発イベント・教室講習等の参加者数	自転車や歩行者などの交通安全に関する啓発イベント・教室講習等の参加者数	10,000	人	交通対策課	2. 交通安全啓発の推進
各年度の実績		13,175	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 ・関係機関との連携により、交通安全に関するイベントや安全教室の参加者が目標値を上回ることができた。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

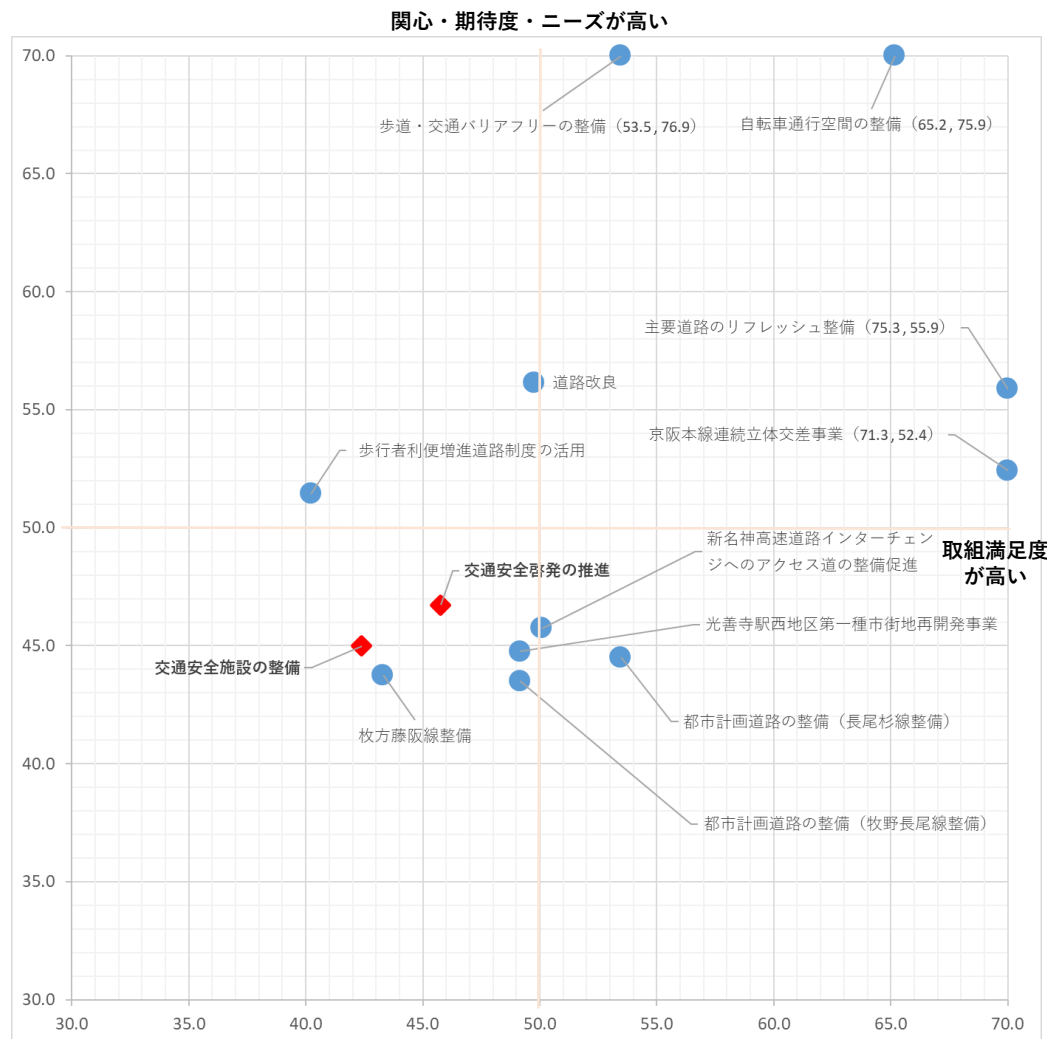
安全で快適な道路環境が整っている
04_05 交通安全意識の向上

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
36.2%	25.9%	37.9%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
28.9%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『安全で快適な道路環境が整っている』に紐づく全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施策シート『04_05 交通安全意識の向上』に紐づく取り組み⇒
赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 交通安全施設の整備」、「2. 交通安全啓発の推進」の関心・期待度・ニーズは平均的であるものの、取組満足度は低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、交通事故の減少を目指し、今後も、地道な交通安全啓発を実施するとともに、取り組み内容を関係機関との連携や広報媒体の活用を通して周知していく。

1. 施策の概要

施策シート[05_01]

土木部

施策名称	公共交通機関の利用促進			
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち		
	施策目標等	5.快適で暮らしやすい環境を備えたまち		
めざす姿（主観的満足度）	公共交通機関が整っているなど都市機能が充実している			
概要	市民生活の利便性向上や環境負荷の低減などを図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	1. 公共交通の利用促進（モビリティ マネジメント）			
	2. 地域自主運行型コミュニティ交通 の構築			

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度48.9%】

- ・年代別では、19歳以下が最も高く、87.5%である。最も低いのは、40歳台で41.5%であった。
- ・枚方市を住みよいと感じている人の74.3%が都市機能に満足している傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、5.6ポイント減少したが若者世代（24歳以下）で45.5ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・指標については、すべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 公共交通の利用促進（モビリティマネジメント）

取り組みの内容	R6年度	担当課
過度に自家用車に依存することなく、多様な交通手段を選択することができるように、鉄道、バス、タクシーなどの公共交通の利用を促進し、持続可能な交通機能確保する。	バススタンプラリー、バスバックヤードツアー等の公共交通イベントの実施	交通対策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
運転手不足に伴う路線バスの廃止や減便が実施されており、バス路線の維持は深刻な状況。改定枚方市総合交通計画にも本施策を明記し、継続して実施していく。	バススタンプラリー（10/5、183名）、バスバックヤードツアー（1/25、1/26、112名）	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
公共交通利用促進啓発イベントの参加者数（累計）	鉄道やバスなど公共交通の利用を促進する啓発イベントの参加者数（累計）	6,500	人	交通対策課	1. 公共交通の利用促進（モビリティマネジメント）
各年度の実績		6,932	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 計画通りに取組むことができたが、イベント参加者数の指標については天候や実施時期などの影響も受けるため、広報活動や出前講座などの公共交通利用促進啓発にも取組む。					

2. 地域自主運行型コミュニティ交通の構築

取り組みの内容	R6年度	担当課
公共交通不便地域などにおいて、既存の公共交通を補完することを目的に、地域協働及び地域への効果的な支援により、地域が主体となって地域の特性・ニーズに応じ移動手段を確保するために、地域自主運行型コミュニティ交通事業の構築を進める	・出前講座や勉強会の開催 ・共助版ライドシェアへの補助	土木政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
総合交通計画の改定に取り組み、公共交通を補完する移動手段を確保するための施策の1つとして、「地域自主運行型コミュニティ交通の水平展開」を位置付けた。 今後、既存補助制度の拡充や導入促進のための手引きの策定などに取組み、「共助版ライドシェア」に名称を改め、水平展開を図る。	・水平展開に向けて自治会などへの出前講座や勉強会を2回開催 ・2団体に「地域自主運行型コミュニティ交通」の補助を実施	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
地域自主運行型コミュニティ交通の実施組織数及び交通に関心を持った組織数	公共交通不便地域等において、地域自主運行型コミュニティ交通の支援を受けた組織数及び勉強会の開催など、関心をもった組織数	3	団体	土木政策課	2. 地域自主運行型コミュニティ交通の構築
各年度の実績		4	団体	備考	
【施策指標の分析 R6】 R6年度は「枚方市総合交通計画」の改定に取り組み、公共交通を補完する移動手段を確保するための施策の1つとして、「地域自主運行型コミュニティ交通の水平展開」を位置付け、本施策に基づき、自治会などへの出前講座や勉強会を開催した。また、「地域自主運行型コミュニティ交通」を行う団体に対し、補助支援等を行った。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

公共交通機関が整っている
05_01 公共交通機関の利用促進

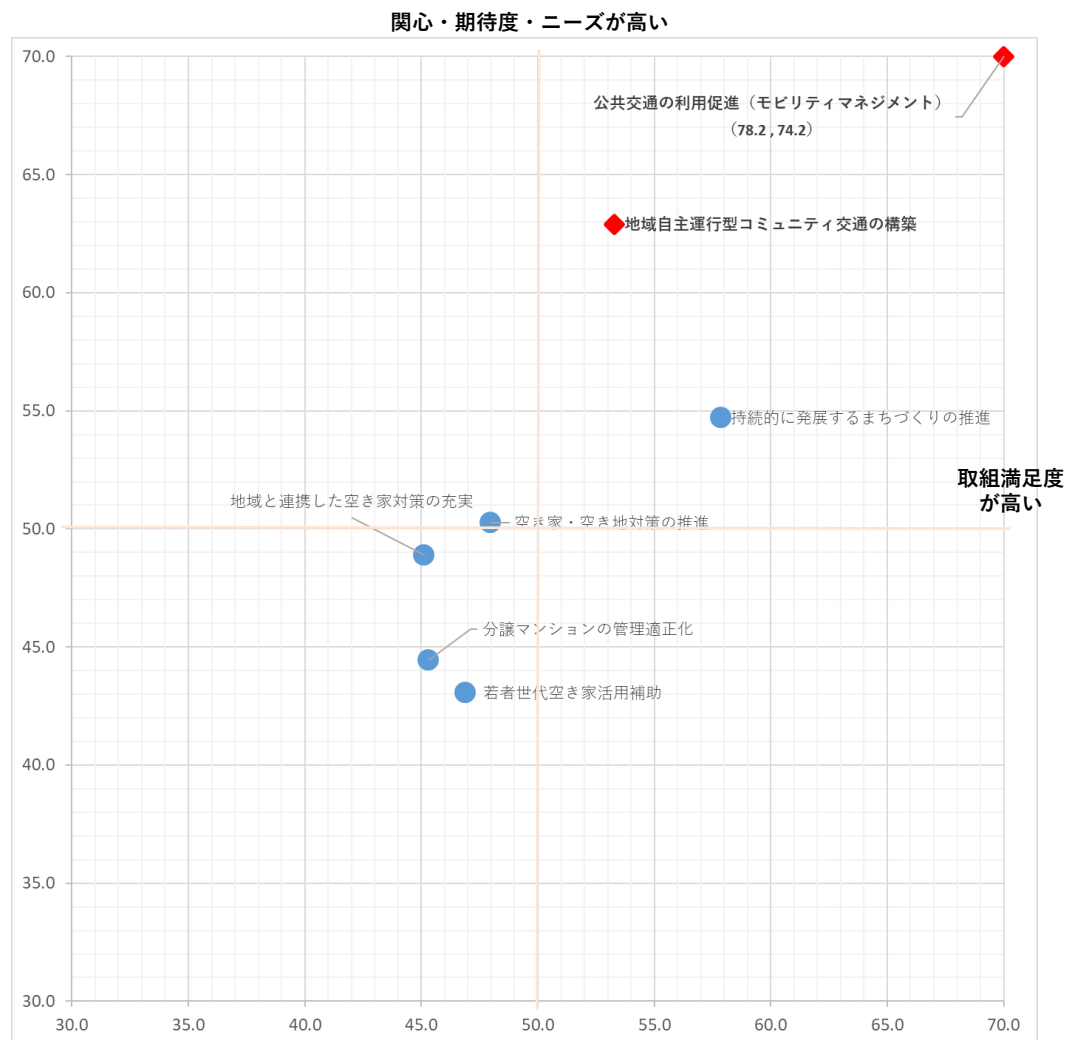
施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
48.9%	18.1%	33.0%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
45.7%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人

不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『公共交通機関が整っている』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『05_01 公共交通機関の利用促進』に紐づく取り組み⇒赤ダイア◆

施策の分析

- ・「1. 公共交通の利用促進 (モビリティマネジメント)」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- ・「2. 地域自主運行型コミュニティ交通の構築」の関心・期待度・ニーズは高いものの、取組満足度は平均的である。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

・施策全体の方向性としては、引き続き、持続可能な交通機能確保に向けた公共交通の利用促進に向けた周知・啓発を行うとともに、地域の特性・ニーズに応じた移動手段の確保を地域が主体となって推進できるよう、地域への支援を行っていく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

・イベント型のバス利用などの促進策はほとんど効果がないと思われるので、廃止してはどうか。モーダルシフトを市民とともに考え地域で実装するような取り組みができないか、ライドシェアもそうしたシフトへの重要な手立てとなる。

・現在の公共交通利用促進は限界にきているので、抜本的に見直す必要がある。交通問題を抱えている地域や階層に焦点を当てて、組み立てしなおしてはどうか。例えば、高齢者も様々な条件が異なるので、それに応じた交通手段整備を考える必要がある。ライドシェアやデマンド型福祉交通なども重要となる。

・市民満足度も高く、引き続き交通機能の確保に努めていただきたい。目標値を上回る実績が得られているが、市民満足度は令和7年度にかけてかなり減少しており、バス路線の廃止や減便などのニュースや回答者の体験から影響を受けていると思われる。

・「地域自主運行型コミュニティ交通の構築」はマトリクス分析からも、関心・期待度・ニーズは高いが、取組満足度はそれほど高くないことから、重点的に進めることで、市民満足度の向上にも寄与できるのではないかと。

・枚方市内でもバス路線の廃止や減便が見られ、公共交通機関の代替手段の検討は急務な課題であるといえる。その一方で、安全性やサービスの質の担保、事故による責任の所在なども検討課題にあがってくることから、既に取り組みをされている市町村の事例を収集し、便利さと安全性の双方を取り入れながら検討することを期待する。

1. 施策の概要

施策シート【05_02】

都市整備部

施策名称		空き家・空き地等の適正管理及び活用促進				
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち				
	施策目標等	5.快適で暮らしやすい環境を備えたまち				
めざす姿（主観的満足度）		公共交通機関が整っているなど都市機能が充実している				
概要		空き家・空き地の適正管理や活用促進及び分譲マンションの管理の適正化の推進を図ることにより、良好な居住環境を確保する。				
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度		R8年度		
	R9年度		R9年度		R9年度	
	1. 地域と連携した空き家対策の充実 2. 若者世代空き家活用補助 3. 空き家・空き地対策の推進 4. 分譲マンションの管理適正化					
					4.枚方市分譲マンション管理適正化 ○推進計画の実施状況について実態調査および結果の分析・評価（中間検証）	

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度48.9%】

- ・年代別では、19歳以下が最も高く、87.5%である。最も低いのは、40歳台で41.5%であった。
- ・枚方市を住みよいと感じている人の74.3%が都市機能に満足している傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、5.6ポイント減少したが若者世代（24歳以下）で45.5ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「地域・不動産団体等・行政の連携により空き家の所有者と不動産事業者がマッチングした物件の数（累計）」、「市内の空き家が不動産流通等により解消された件数」は、未達成だが、目標には近づいており、「特定空き家等及び特定空き地等の改善率」は、未達成である。
- 「管理不適正マンションの割合」、「30年以上の長期修繕計画に基づく修繕積立金額を設定している分譲マンション管理組合の割合」は、未達成であるものの、令和14年度の目標値へ向けて取り組みを進めている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 地域と連携した空き家対策の充実

取り組みの内容	R6年度	担当課
地域と連携した空き家の実態把握や地域に出向いたセミナーの開催、空き家に関する相談体制の整備など、地域密着の対策	取り組む地域の拡充～空き家の実態調査～所有者調査～利活用支援(セミナー(R6中)・相談体制の整備(R6～R9目途))	住宅まちづくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・今後も取り組みを展開するにあたり連携する地域の協力・選定に課題がある。 ・作業量に対して、より効率的な手法の検討	・2地区において空き家の実態調査を実施した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
地域・不動産団体等・行政の連携により空き家の所有者と不動産事業者がマッチングした物件の数(累計)	行政が地域に出向き、地元協力による空き家実態調査や不動産団体等と連携した空き家の所有者調査及び意向確認並びに所有者相談や空き家活用に向けた支援を行う空き家解消への取り組みにより空き家の所有者と不動産事業者がマッチングした物件の数(累計)	11	件	住宅まちづくり課	1. 地域と連携した空き家対策の充実
各年度の実績		8	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 所有者相談等の中で空き家の活用意向が確認できたものについては、協力事業者とマッチングすることにより、空き家の流通促進につなげたが、地域と連携した取り組みについては、地域選定に時間を要したため、今年度中にマッチングに至らず目標を達成できなかった。					

2. 若者世代空き家活用補助

取り組みの内容	R6年度	担当課
若者世代空き家活用補助制度を実施	若者世代空き家活用補助制度等の周知・啓発及び、運用	住宅まちづくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・補助制度利用者の拡充に向け、更なる周知啓発が必要	・制度周知のため、イベントへの出展や広報誌・SNSを活用した広報活動を実施した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
市内の空き家が不動産流通等により解消された件数	若者世代空き家活用補助制度等の活用により空き家が解消された執行件数	30	件	住宅まちづくり課	2. 若者世代空き家活用補助
各年度の実績		21	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 若者世代空き家活用補助制度の利用促進のため、イベントへの出展や広報誌・SNSを活用した広報活動を実施したが、申込件数が補助枠上限に達しなかったため目標値を達成できなかった。					

3. 空き家・空き地対策の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
空き家の未然防止や活用など、空き家対策について総合的、計画的に取り組む	・モデル事業等の多角的な施策展開（例）地域協力による空き家実態調査 ・公民連携による所有者意向確認 ・定期的なセミナー開催	住宅まちづくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・改定した第2次枚方市空家等対策計画及び実行計画（第2期）に基づく空き家対策の実施	・2地区において空き家の実態調査を実施した。 ・法改正に伴う第2次枚方市空家等対策計画の改定及び実行計画（第2期）を策定した。 ・空き家対策に係るセミナーを2回開催した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
特定空家等及び特定空き地等の改善率	周囲への危険性が高いと市が判断して「特定空家等」及び「特定空き地等」と認めた物件のうち、危険が取り除かれ指定の解除に至った数／「特定空家等」及び「特定空き地等」と認めた物件の数	100	%	住宅まちづくり課	3. 空き家・空き地対策の推進
各年度の実績		0	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 認定している特定空家（1件）については、所有者への指導等により一定の改善は見られたものの、認定解除には至っていない。					

4. 分譲マンションの管理適正化

取り組みの内容	R6年度	担当課
枚方市分譲マンション管理適正化推進計画（R5～R14）に基づき、マンションの管理適正化を計画的に促進	・管理適正化に関する情報提供及び相談支援体制の充実 ・管理計画認定制度の運用 ・マンション管理実態の把握や連絡体制の構築	住宅まちづくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・マンション管理の情報提供や管理計画認定制度の普及を行う必要がある。 ・実態調査アンケート未回収マンションに対し、引き続き回答を求める必要がある。 ・管理不適正マンションへの支援の働きかけを行う必要がある。	・マンションセミナーを2回開催した。 ・大阪府マンション管理士会と協定締結し、R7年度以降の個別相談会とアドバイザー派遣実施体制を構築した。 ・管理計画認定を2件行った。 ・管理実態が未把握であるマンションにアンケートを送付した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
管理不適正マンションの割合	マンション管理実態調査（アンケート調査）における管理不適正マンションの件数／回答件数	7.0 (R14目標値)	%	住宅まちづくり課	4. 分譲マンションの管理適正化
各年度の実績		9.3	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 管理不適正マンションに対してアドバイザー派遣制度などの支援の働きかけを行う必要がある。					
30年以上の長期修繕計画に基づく修繕積立金額を設定している分譲マンション管理組合の割合	マンション管理実態調査（アンケート調査）における計画期間30年以上のマンションの件数／回答件数	51.0 (R14目標値)	%	住宅まちづくり課	4. 分譲マンションの管理適正化
各年度の実績		35.2	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 マンション管理の情報提供や管理計画認定制度の普及とともに、長期修繕計画の作成や見直しに対する支援を行う必要がある。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

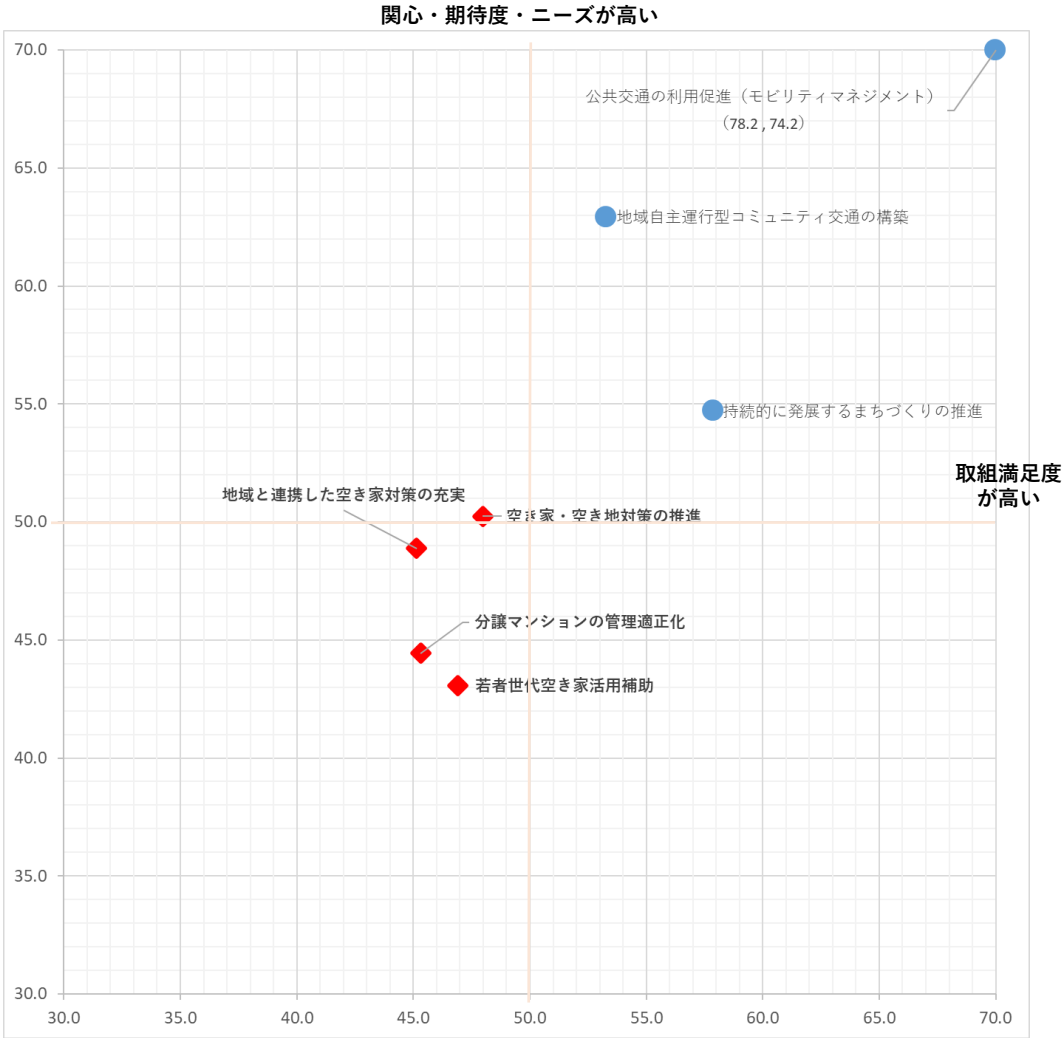
公共交通機関が整っている
05_02 空き家・空き地等の適正
管理及び活用促進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
48.9%	18.1%	33.0%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
45.7%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足
度)『公共交
通機関が整っ
ている』に紐
づく全取り組
み⇒青丸●

上記のうち施
策シート
『05_02 空
き家・空き地
等の適正管理
及び活用促進
』に紐づく取
り組み⇒赤ダ
イヤ◆

施策の分析

- ・「1. 地域と連携した空き家対策の充実」、「3. 空き家・空き地対策の推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに平均的である。
- ・「2. 若者世代空き家活用補助」、「4. 分譲マンションの管理適正化」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・引き続き、地域住民等との連携による空き家等の実態把握と所有者の利活用支援を行い、空き家等の解消に繋げるとともに、補助制度の積極的な周知を行い、空き家の利活用を促進する。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・内部評価は、満足度に拘泥して、空き家空き地、マンション問題への対策の評価としては不十分なところがある。地域連携、マッチング、若者世代補助、不適正管理マンションなどへの効果的な対策を打っていく必要がある。また、この施策評価とは別に、事業の見直しなども考えていく必要がある。
- ・おおむね目標値、あるいは目標値を上回る実績が得られているが、マトリクス分析では、当該施策に関わる施策はほとんど関心・期待・ニーズも取組満足度も低い傾向にあり、まずは関心・期待・ニーズを高める取り組み、あるいは取組満足度を高める取り組み、いずれかに特化して検討するのもよいのではないか。
- ・若者世代空き家活用補助制度の活用が指標の目標値に達していないため、周知活動を強化いただきたい。
- ・空き家の利活用において「若者世代空き家活用補助」はおおいに有効と思えるが、この制度自体ある事が全く知られていない上、補助内容や空家の所在・数量がイメージできないので、不動産会社も巻き込んで、市場の見える化の工夫が必要ではないか。
- ・若者世代空き家活用補助のリーフレットの中に、補助を利用した人の声（メッセージ）などを入れてみるのもよいのではないか。
- ・空き家問題は人口減少の一途をたどっているわが国においてはとても大切なテーマであり、犯罪や災害などにも影響することから、さまざまな用途による活用が重要になってくる。

1. 施策の概要

施策シート【05_03】

都市整備部

施策名称		公共交通を軸とした都市機能の集約化			
総合計画体系	基本目標等	1.安全で、利便性の高いまち			
	施策目標等	5.快適で暮らしやすい環境を備えたまち			
めざす姿（主観的満足度）		公共交通機関が整っているなど都市機能が充実している			
概要		公共交通と連携して、医療・福祉・商業等の生活機能を確保したコンパクトなまちづくりを計画的に進める。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
		1. 持続的に発展するまちづくりの推進 2. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（茄子作地区） 3. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（村野駅西地区） 4. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（高田二丁目地区） 5. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（長尾駅周辺地区）			
	R7年度				
	R8年度	1. 持続的に発展するまちづくりの推進 ○枚方市都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の改定			
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度48.9%】

- ・年代別では、19歳以下が最も高く、87.5%である。最も低いのは、40歳台で41.5%であった。
- ・枚方市を住みよいと感じている人の74.3%が都市機能に満足している傾向にあり、住みよさにつながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、5.6ポイント減少したが若者世代（24歳以下）で45.5ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・指標については、目標達成に向け進んでいる。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 持続的に発展するまちづくりの推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
枚方市都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の改定	委託業務発注 (債務負担) (R6-R8)	都市計画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
現計画の評価結果や社会情勢の変化、アンケート結果、上位計画及び関連計画の内容などを踏まえ、両計画を改定する。	委託業務発注・契約 (債務負担) (R6-R8)	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

2. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（茄子作地区）

取り組みの内容	R6年度	担当課
土地区画整理事業への技術的・財政的支援（茄子作地区）	・都市計画決定 ・組合設立	市街地開発課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
円滑な事業推進のため、組合に対し引き続き支援を行う。	令和6年9月に都市計画決定し、令和7年3月に土地区画整理組合の設立認可を受けた。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
事業進捗	土地区画整理事業の実施に向け組合を設立し、仮換地指定を経て造成工事実施を目指すもの。	組合設立認可 組合設立	—	市街地開発課	2. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（茄子作地区）
各年度の実績		組合設立認可 組合設立	—	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和7年3月に土地区画整理組合の設立認可を受け、目標を達成した。仮換地指定や造成工事着手に向け、組合に対し引き続き支援を行う。					

3. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（村野駅西地区）

取り組みの内容	R6年度	担当課
土地区画整理事業への技術的・財政的支援（村野駅西地区）	・都市計画決定 ・組合設立	市街地開発課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
円滑な事業推進のため、組合に対し引き続き支援を行う。	令和6年9月に都市計画決定し、令和7年2月に土地区画整理組合の設立認可を受けた。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
事業進捗	土地区画整理事業の実施に向け組合を設立し、仮換地指定を経て造成工事実施を目指すもの。	組合設立認可 組合設立	—	市街地開発課	3. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（村野駅西地区）
各年度の実績		組合設立認可 組合設立	—	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和7年2月に土地区画整理組合の設立認可を受け、目標を達成した。仮換地指定や造成工事着手に向け、組合に対し引き続き支援を行う。					

4. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（高田二丁目地区）

取り組みの内容	R6年度	担当課
土地区画整理事業への技術的・財政的支援（高田二丁目地区）	・土地利用計画等の検討	市街地開発課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・概算事業費を算出した上で、事業成立性の検討を行う必要がある。 ・すでに土地利用が図られている土地が複数あることから事業区域の検討（再設定）を行う必要がある。	・意向調査に係る支援 ・各種勉強会実施の支援 ・関係機関協議の実施	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
土地区画整理準備組合の設立	地権者が主体となり実施する土地区画整理事業の実現に向けて、土地区画整理組合の準備組織である土地区画整理準備組合の設立を目指すもの。	土地利用計画等の検討	—	市街地開発課	4. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（高田二丁目地区）
各年度の実績		意向調査・勉強会の実施、土地利用計画の検討	—	備考	
【施策指標の分析 R6】 土地利用計画図等に意向調査や勉強会、関係機関協議の結果を反映させるように支援を行った。また、次年度早々に、土地利用計画図等について、地権者への説明会を行うことが出来るよう調整を行った。					

5. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（長尾駅周辺地区）

取り組みの内容	R6年度	担当課
土地区画整理事業への技術的・財政的支援（長尾駅周辺地区）	土地区画整理事業検討業務委託	市街地開発課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・都市計画手続きや環境影響評価など、3地区のまちづくり検討会で地区間連携の調整を行う必要がある。 ・区域面積が約95haと広大であり、各種インフラが未整備であることから、全庁及び関係機関との連携を行う必要がある。	・委託の仕様書の内容が適切に作成され、成果として納品された。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
土地区画整理準備組合の設立	地権者が主体となり実施する土地区画整理事業の実現に向けて、土地区画整理組合の準備組織である土地区画整理準備組合の設立を目指すもの。	土地区画整理事業検討業務委託の実施	—	市街地開発課	5. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（長尾駅周辺地区）
各年度の実績		公共施設のボリューム検討	—	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度業務委託については、仕様書の内容が適切に作成され成果が納品された。次年度は、今年度まちづくり検討会で選定された事業協力者の提案内容をもとに令和6年度業務を見直し、地域が進めるまちづくりへの支援として、事業計画案の作成及び測量業務等を実施する業務委託に取り組んでいく。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

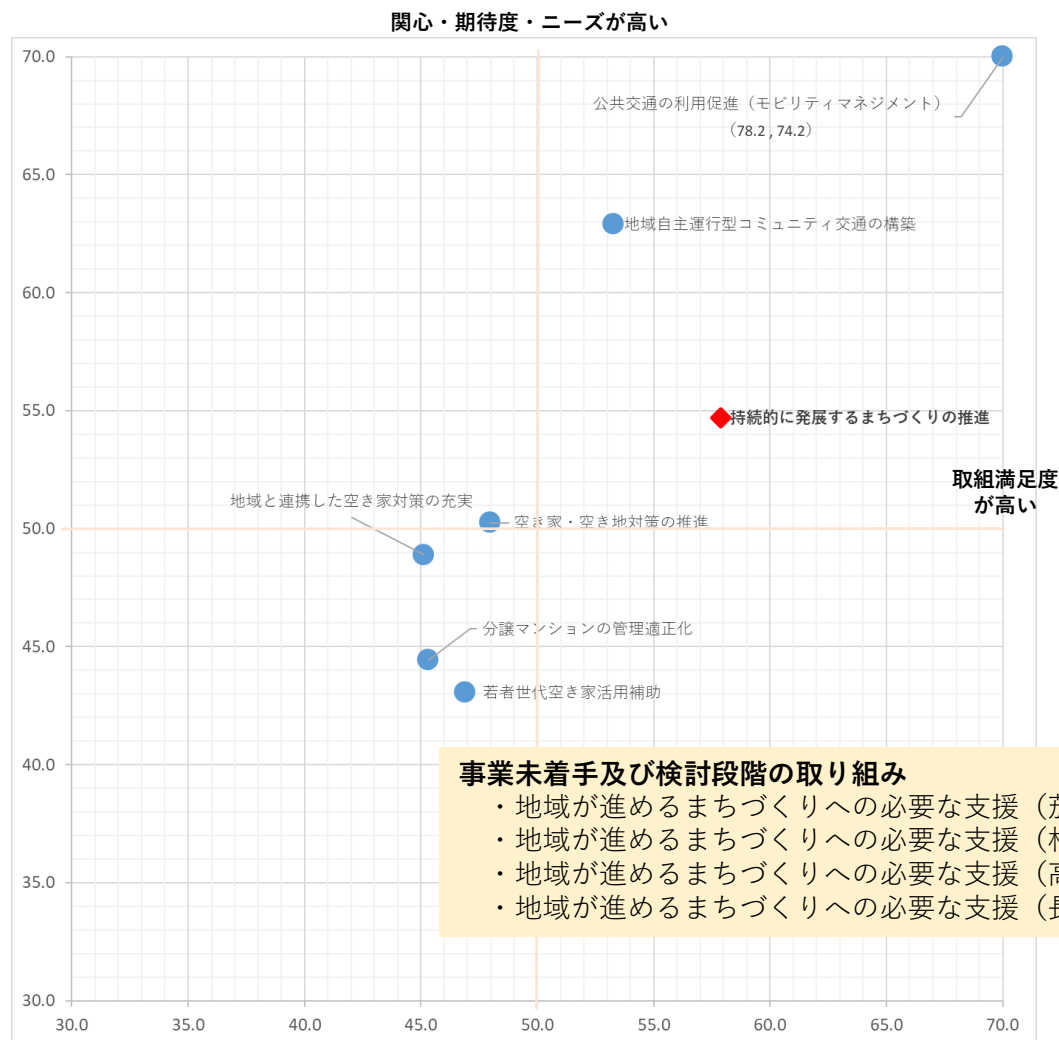
公共交通機関が整っている
05_03 公共交通を軸とした都市機能の集約化

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
48.9%	18.1%	33.0%
「決め手となった取り組みはない」と回答した人		
45.7%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
（施策満足度）『公共交通機関が整っている』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『05_03 公共交通を軸とした都市機能の集約化』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 持続的に発展するまちづくりの推進」の関心・期待度・ニーズは平均的であるものの、取組満足度が高い。
- ・「2. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（茄子作地区）」、「3. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（村野駅西地区）」、「4. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（高田二丁目地区）」、「5. 地域が進めるまちづくりへの必要な支援（長尾駅周辺地区）」については、現在取り組みを進めている。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性として、持続的に発展するまちづくりの推進を行うため、関係機関と連携のうえ地域が必要とする支援を推進していく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・市民満足度評価と事業実績との関連付けができていないので工夫する必要がある。
- ・コンパクトシティ概念を広げる形で事業を進めることが望ましい。残念ながら、現状では土地区画整理事業からコンパクトシティへの道筋は見えてこない。一連の再開発がコンパクト化に貢献するものとして設計される必要がある。
- ・今後の都市マスや立適の方向にもよるが、クラスターとネットワークを基本とすることは変わらないので、開発計画をどのように位置付けて、計画内容を方向付けるかが課題であり、土地区画整理事業は時間はかかるが縮小社会の実験として重要である。
- ・土地開発は枚方市の人口や産業・まちづくりにとって重要な課題であるため、地権者や開発事業者他との連携・調整をしっかりと取りながら進めていただきたい。
- ・「地域が進めるまちづくりへの支援」を既に終えた地区があり、当該地区へのモニタリングなどを行われているのであれば、指標の一つに含める検討はできないか。